



環境・社会活動報告書 2007

環境にやさしい、人にやさしい百貨店

株式会社 西武百貨店

CONTENTS

- 1 編集方針
- 2 会社概要
- 3 トップマネジメント・コミットメント
- 5 環境推進の中期ビジョンと活動目標

01 環境活動の歩みと成果

- 6 環境目標達成の進捗
- 7 環境・社会活動の歩み
環境・社会活動の情報提供
- 8 社外とのコミュニケーション
- 9 西武百貨店の事業活動と環境保全活動
- 11 2006年度の環境活動結果
- 13 2006年度 店舗の環境目標達成状況
- 15 2006年度 環境会計
- 16 グリーン購入・調達

02 環境マネジメントシステム

- 17 環境マネジメントの仕組みと運用状況
- 19 環境教育による環境意識の向上
- 20 社員の環境意識 全社員アンケートから
- 21 環境マネジメントシステムの点検と改善
- 22 ISO14001定期審査報告

03 目標達成へ向けた取り組み

- 23 環境にやさしい店舗づくりと
店舗オペレーション
- 25 環境にやさしい商品や
ライフスタイルの提案
- 27 人にやさしい百貨店として
- 29 お客さまの安心安全を守るために
- 30 従業員の働く環境
- 31 店舗の地域活動・社会貢献活動

編集方針

西武百貨店は1999年4月、百貨店業界で初めて国際環境規格ISO14001を取得し、その翌年2000年より環境保全活動の報告書を発行しております。2003年からは『環境・社会活動報告書』として社会貢献活動も含めた報告書に改め、今回で通算8冊目の発行となります。2007年は昨年度に引き続き、環境側面を中心に社会的側面、経済的側面を含めご報告するとともに、経年の活動を取りまとめました。

2007年度は京都議定書の温室効果ガス削減に向けた準備期間の最後の年となります。また一部でレジ袋が有料化されるなど、身近なところでも環境問題を意識することが多くなってまいりました。

この機会に一層お客さまや地域とのコミュニケーションを強化し、皆さまのご理解とご協力をいただきながら、小売業としての事業活動を通じて環境保全に努め、地域密着型企業である百貨店として、社会貢献に努めてまいります。そのためにもこの報告書が、私どもの環境に対する考え方と具体的な取り組みをご理解いただく一助となればと考えております。

なお、本報告書は環境省『環境報告書ガイドライン(2003年度版)』を踏まえ、「環境報告書作成基準案」に定められた基本的枠組みに沿って作成しました。

本報告書について、皆さまからたくさんのご意見・ご感想をお寄せいただくと幸いです。

本報告対象期間

2006年事業年度(2006年3月~2007年2月)
*一部2007年3月以降の報告と中期目標を含みます。

報告対象組織

ISO14001規格取得サイト
株式会社西武百貨店16店舗・全事業所
株式会社ミレニアムリテイリングMD統括部、総務部

報告対象分野

環境的側面・社会的側面・経済的側面

参考

環境省『環境報告書ガイドライン(2003年度版)』
環境省『平成15年度環境報告書基準委員会報告書』
経済産業省『ステークホルダー重視による環境レポートガイドライン2001』
GRI『GRIサステナビリティリポートガイドライン2002』

発行

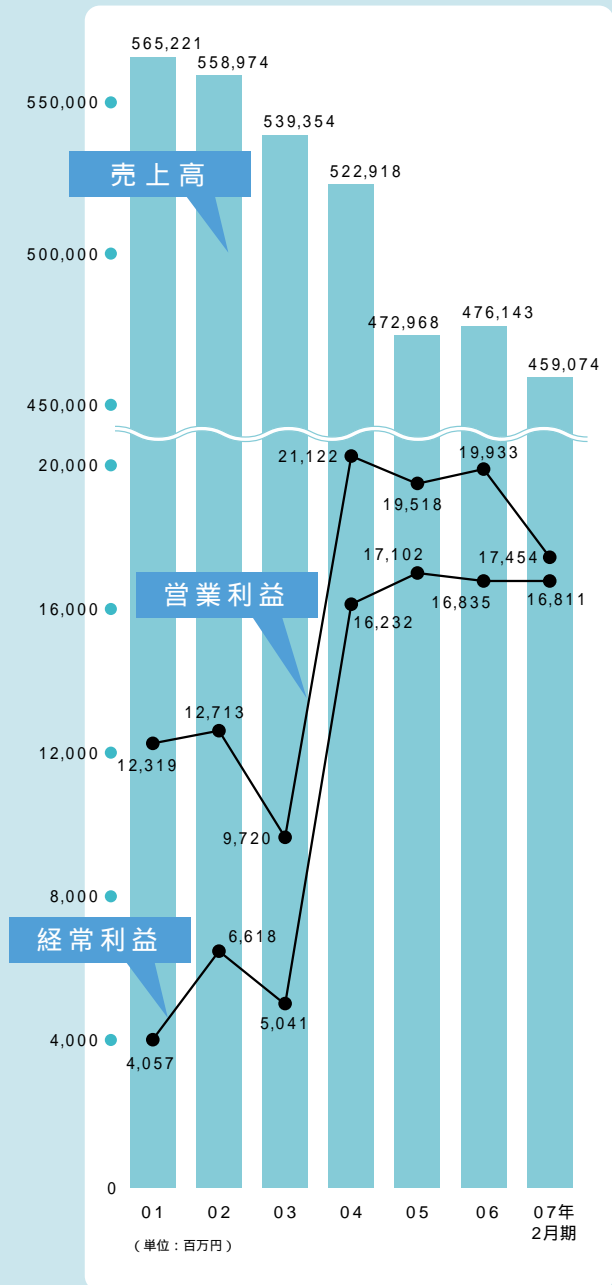
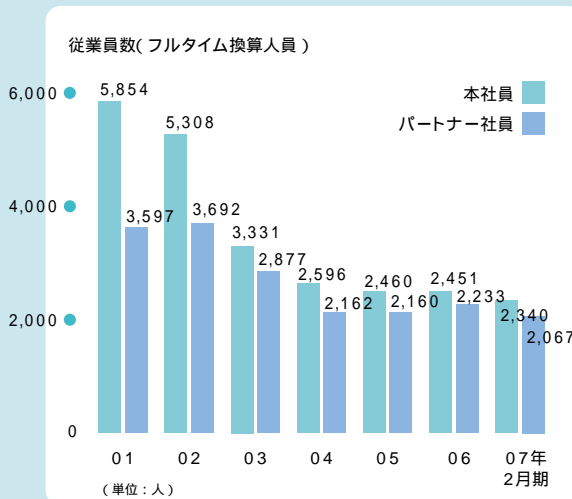
株式会社西武百貨店

表紙の写真は、社内公募による岡崎店・吉永さんの作品「美瑛の丘」です。また、裏表紙の写真は、社内公募による船橋店・高野さんの作品「北アルプス鏡平より穂高連峰」です。

会社概要

株式会社 西武百貨店 (The Seibu Department Stores, Ltd.)

本社所在地 〒171-8569 東京都豊島区南池袋1丁目28番1号
 設立 1940年3月14日
 資本金 60億円(2007年2月末現在)
 代表者 代表取締役社長 大崎文明
 事業内容 百貨店業
 店舗数 16店舗
 社員数 2,340名(2006年2月末)
 Home Page <http://www.seibu.co.jp/>



株式会社 ミレニアムリテイリング (Millennium Retailing, Inc.)

本社所在地 〒102-0074 東京都千代田区九段南2丁目1番30号(イタリア文化会館ビル)
 設立 1952年7月25日
 資本金 377億33百万円(2007年2月末現在)
 代表者 代表取締役社長 佐野和義
 株主 (株)セブン&アイ・ホールディングス
 Home Page <http://www.millennium-retailing.co.jp/>

(株)ミレニアムリテイリングはMD統括部と総務部の2部門がISO14001対象となっています。

従業員一人ひとりの実践を促し 企業市民として、環境保全活動と社会貢献活動を さらに推進していきます。

株式会社 西武百貨店 代表取締役社長 大崎文明

企業市民としての社会的責任

京都議定書の約束期間(2008~2012年)開始を
来年に控え、企業の環境保全はもう一段の取り組み
強化が求められ、また、企業市民としての社会的責任
を問う声も一層大きくなっています。

西武百貨店は、社員の行動基準として最初に「社会
の一員として自覚を持って行動すること」を掲げてい
ます。地域に根ざし社会に開かれた企業として、地域
貢献に努め、社会から継続的な信頼を獲得することは
最も重要であると考えているからです。

私たちは、従業員一人ひとりが日々の活動の中でこ
の行動基準をしっかりと自覚し順守しているかを確認
し合い、そして日々たくさんの地域の方々と接し、そ

の豊かな暮らしづくりに貢献する企業として、環境や
社会のために事業活動を通じて何をなすべきか、何
ができるのかを、常に厳しく問いかけていきたいと考
えています。

環境推進のポイント「4つの柱」

西武百貨店は、簡易包装や環境商品の取り扱い、再
生紙の使用など、社内環境ハンドブックを作成してい
ち早く環境問題、省エネ・省資源に取り組んできました。
特に、1999年に百貨店業界で初めて環境マネ
ジメントシステム「ISO14001」認証を全店・全事業
所で取得してからは、同システムに則りPDCAのサイ
クル(P17参照)で地道な努力を継続しています。

その結果、この8年間で包装資材やコピー用紙など
紙類の使用量は半分以下になり、廃棄物の量は発生の
抑制とリサイクル率の向上で40%台に激減していま
す。これはお客さまのご理解とお取引先様のご協力が
あっての結果と認識しています。

また昨今では、環境負荷を削減する活動にとどま
らず、地域の清掃活動や盲導犬育成募金など、環境や
社会に貢献できる活動、お客さまや地域の方々と一
緒に取り組んでいける活動も積極的に行っています。

環境保全活動とISO14001認証取得

異常気象や地域災害などにより、地球環境に対する
社会的な関心は急速に高まっており、「チームマイナス
6%」や「クールビズ」などの国民運動も定着し始めて
います。当社も中期環境目標「4つの柱と9つの取り
組み」を通じて、一層の環境保全に取り組んでいます。

第一の柱は「お客さまとのコミュニケーション」で
す。商品の選定や簡易包装を通じて環境保全にご協

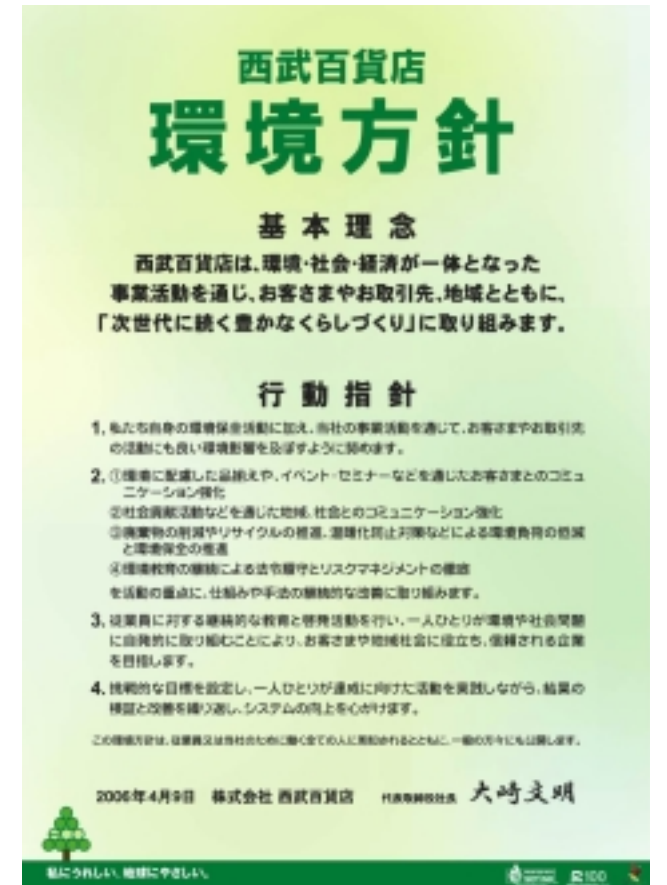
力いただき、イベントやセミナーを通じてお客さまと
ともに環境について考えていくことは、毎日たくさ
んの生活者の皆さまと接点を持つ百貨店にとって、きわ
めて重要な役割だと考えています。例えば「簡易包装」
も、ただお勧めし、お願いするだけではありません。
エコバッグを販売してマイバッグのご持参を促進した
り、日本の伝統文化でもある風呂敷の使い方をディス
プレイを通じて提案したり、講座を設けるなどしてい
ます。こうして様々なかたちで集まる「お客さまの声」
が、私たちの活動の起点となっています。

「社会・地域とのコミュニケーション」では、店舗周
辺の清掃美化活動に積極的に取り組んでおり、2006
年度は全店で計820回、延べ12,000人以上の従業
員が参加しました。

「盲導犬育成事業支援」にも力を入れ、店頭募金と盲
導犬ふれあいキャンペーン、社員募金制度と労使基金
の設立などを推進。一連の取り組みが評価され、昨年
「第3回 朝日企業市民賞」をいただいたことは、日々
寄せられるお客さまの声とともに活動の大きな励み
となっています。その他、どんぐりの植樹活動への協力、
使用済みプリペイドカード等の財団法人への寄付、エ
コバッグ販売収益金の一部寄付なども行っています。

地球温暖化対策や循環型社会の推進、省エネ・省資
源の推進といった、基本となる「環境負荷の低減と環
境保全活動」についても、徹底を継続していきます。
今後も店舗の大型改装が予定されているなか、廃棄
物や工事車両の管理、リニューアルによる電力や水道、
紙類の使用量などをしっかりとマネジメントしていく
ことが肝要です。

「法令の順守とリスクマネジメントの強化」は、環境
問題のみならず企業存続の基盤として、さらに取り組



みを徹底していきます。従業員の範囲が広く、関わる
人々も多い業態ですから、継続的な教育と意識喚起
は極めて重要な課題です。

環境活動の定着・向上へ向けて

「21世紀は環境経営の時代」ともいわれていますが、
西武百貨店では環境保全・社会貢献への新たな決意と
して、昨年「環境方針」を見直しました。CSR(企業の
社会的責任)やサステナビリティ(持続可能性)とい
った視点をしっかりと取り込み、従業員一人ひとりの
自発的な実践を促す内容になっています。従業員の
環境への取り組み意識は確実に高まっていますが、と
もすればマンネリ化し惰性に陥ることのないように、
たゆみない向上を図っていきます。

西武百貨店は「環境にやさしい、人にやさしい百貨
店」として、環境保全活動・社会貢献活動と一体とな
った事業活動を通じ、次世代に続く豊かな暮らしづく
りに取り組んでいきます。今後とも皆さまの一層のご
指導、ご支援をお願いいたします。



環境推進の中期ビジョンと活動目標

1999年4月にISO14001を取得以降8年間、不適合の指摘を受けることなく、着実に活動を推進しています。これまでの環境推進活動の進捗と課題、お客さまや地域の方々の声を起点としながら、百貨店という事業特性を生かした中期的な環境への取り組みと活動目標を策定し、毎年見直しています。

重点取り組み項目		具体的プログラム	07年度目標	08年度目標	09年度目標
4つの柱	9つの取り組み				
お客さまとのコミュニケーションの強化	環境商品の選定と提案	環境商品選定と訴求強化	10品目の新規認定	10品目の新規認定	10品目の新規認定
		環境商材売上拡大	30億円	30億円	30億円
	エコバッグ売上拡大	1,000万円	1,030万円	1,050万円	
	スマートラッピングの推進	包装紙・手提袋の削減	前年比 0.2%	前年比 0.3%	前年比 0.3%
社会・地域とのコミュニケーションの強化	地域との共生	環境イベントの展開・強化	環境イベントの開催	各店年間4回以上	各店年間4回以上
		店舗外周清掃の実施	各店月2回以上	各店月2回以上	各店月2回以上
	社会との共生 (盲導犬育成支援活動)	地域コミュニケーションの実施	各店半期1回以上	各店半期1回以上	各店半期1回以上
		盲導犬育成事業支援	募金額前年増	募金額前年増	募金額前年増
環境負荷の低減と環境保全活動の推進	「地球温暖化」対策	盲導犬ふれあいキャンペーン	各店半期1回の開催	各店半期1回の開催	各店半期1回の開催
		電力使用量の削減	1 前年比+2.9%	前年比 1%	前年比 1%
		温室効果ガス排出量の削減	2 前年比+2.9%	前年比 1%	前年比 1%
		社用車の低公害車切替	100%	維持	維持
	「循環型社会」の推進	納品代行システムの促進	納品代行および店舗納品代行の取り組み促進		
		廃棄物量の削減	前年維持	前年維持	前年維持
	「省資源」の推進	リサイクル率の向上	58%	59%	59%
		水資源使用量の削減	3 前年比+1.6%	前年比 1%	前年比 1%
		事務用紙使用量の削減	前年比 0.3%	前年比 0.3%	前年比 0.3%
		フロン管理の徹底	・故障・改装時に特定フロン使用機器を入替 ・フロン使用機器廃棄時に適正なフロン引渡し ・業務用冷凍冷蔵機器の日常温度管理を徹底		
コンプライアンスとリスクマネジメント	順法とリスクマネジメントの強化	PCB管理の徹底	・保管、管理の徹底 ・行政処理計画にもとづき適正処理を実施 (PCB廃棄物保管店舗 池袋本店・札幌店・沼津店)		
		薬品管理の徹底	・保管、取扱い手順の順守 ・業務委託先を含む安全教育の実施		
		テナント教育(環境教育)	・テナント従業員への環境教育・指導 ・新規出店テナントの環境対応状況点検		

- 1, 3 池袋本店、渋谷店、有楽町店の大型改装に伴うテナント変更、食品拡大等により増加と件、CO₂発生は電力使用によるものが大きいと、電力増の影響を受けています。
- 2

中期計画は「4つの柱と9つの取り組み」を基本的な枠組みとして目的、目標が作られています。

お客さまや地域・社会の声を起点に商品や環境イベントを通じて環境問題に取り組んでいきます。

一般消費者の方々と接点を持つ小売業として、また地域に根ざす地元密着型企業として「お客さまとのコミュニケーション」「社会・地域とのコミュニケーション」を強化します。具体的には、環境に配慮したライフスタイルの提案やイベントの開催、「外周清掃」「盲導犬」などの社会貢献活動を積極的に行います。

地球温暖化対策や、循環型社会の推進に向けた従業員一人ひとりの地道な取り組みを継続します。

政府の国民運動「チームマイナス6%」の一員として省エネ・省資源活動に積極的に取り組み、また日本百貨店協会のメンバーとして自主行動計画の達成に向けて取り組んでいます。「スマートラッピング」やマイバッグ持参運動などのPRも、ホームページなどを活用しながら積極的に推進していきます。

順法とリスクマネジメントの仕組みについて、一層の徹底を図っていきます。

従業員一人ひとりの業務がどのように環境保全に関わっているか、環境教育を通じて自覚を促し、危機管理についての実践力を高めていきます。具体的には、緊急事態を想定して対応手順書を作成し、備品や警報装置などの日常点検に加え、半年ごとに実地訓練を実施し有効性を確認しています。



大津店のガス防災初動訓練

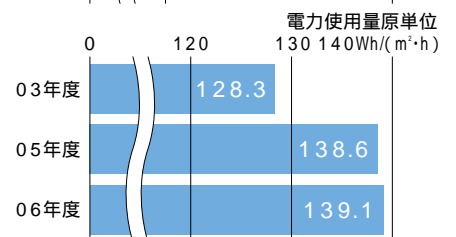
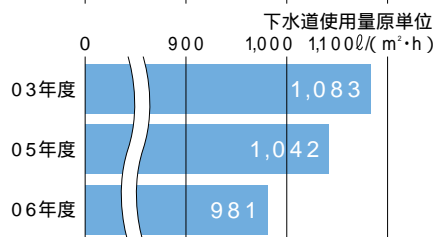
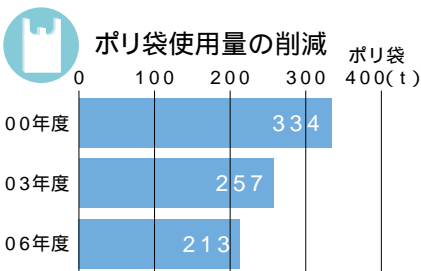
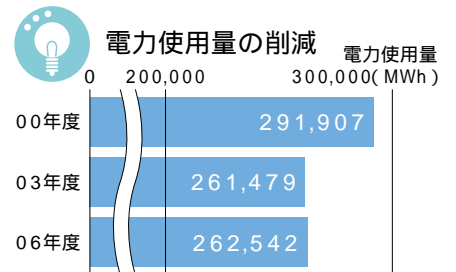
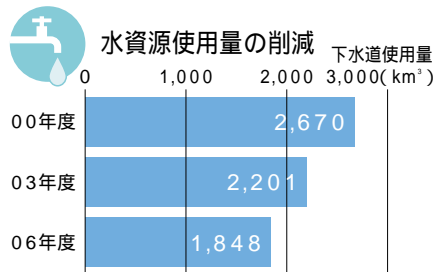
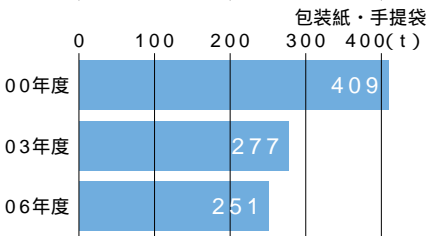
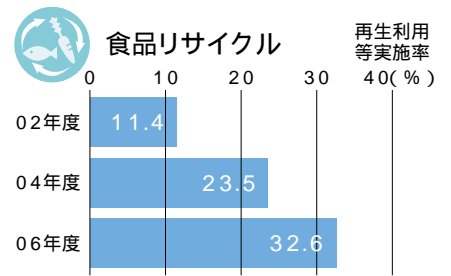
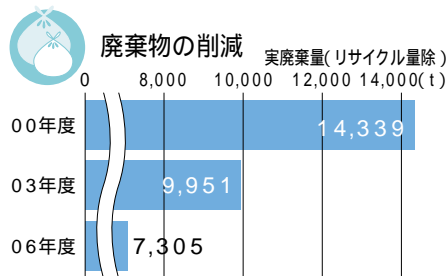
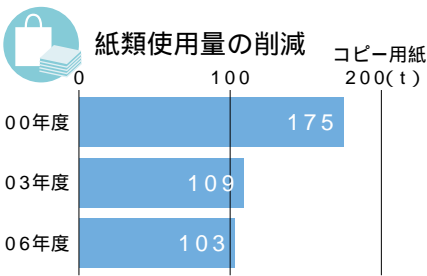
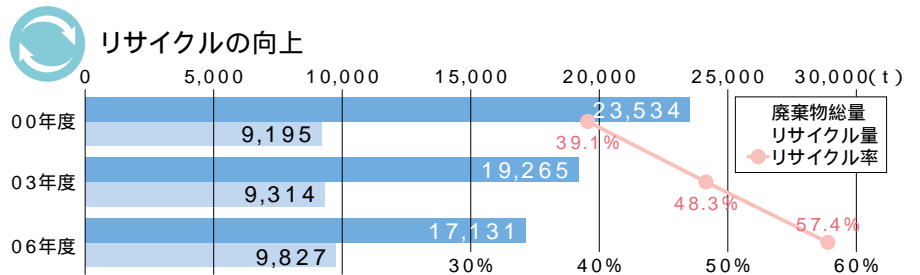
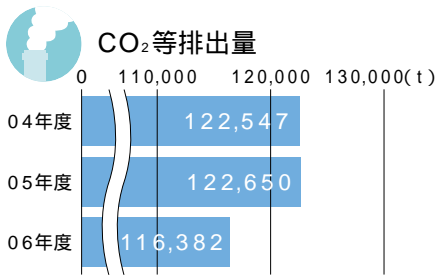
環境目標達成の進捗

ISO認証取得以来、店舗別に環境目標を設定し、全社で環境保全活動に取り組んできました。その間、東戸塚店、岡崎店の新規開店、2000年6月の「大店立地法」施行に伴う営業日数・営業時間の拡大、7店舗の大型リニューアルおよび8店舗閉店といった与件はありながらも、大きな活動の成果をあげてきました。

例えば2006年度実廃棄量は、廃棄物総量の削減(00年度比72.8%)とリサイクル率の向上(同+18.3%)により、2000年度比50.9%と半減しました。紙類の使用量も、コピー用紙が同58.9%、包装

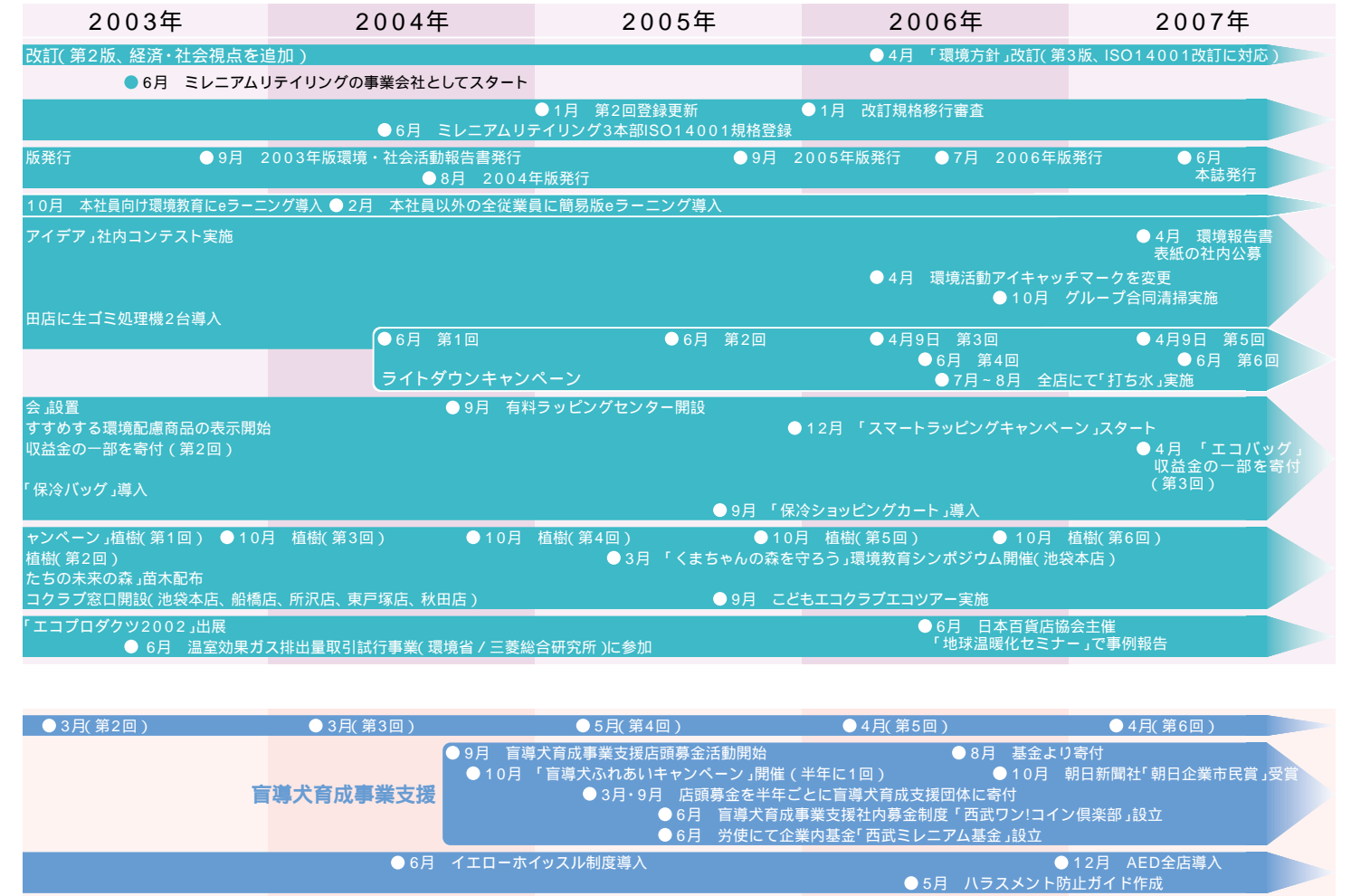
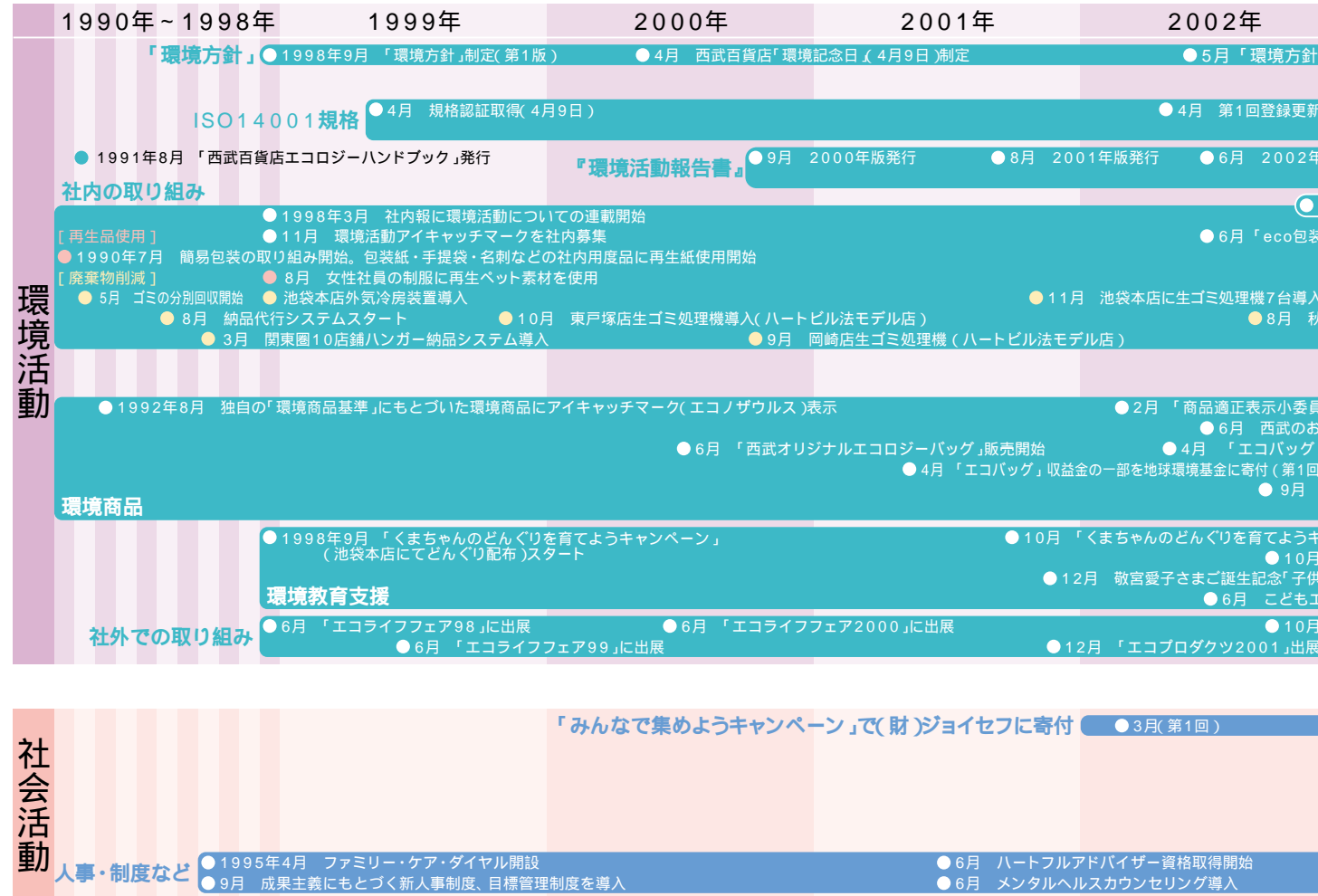
紙・手提袋同61.4%と大幅に減少しました。

電力使用量、下水道使用量も、2000年度比で89.9%、69.2%と削減しました。しかし、営業面積と営業時間といった与件を加味した「原単位」では、比較可能な03年度比で、下水道使用量は90.6%と、年間1%削減目標を大きく達成しましたが、電力使用量は、近年の猛暑・残暑の影響や大型改装に伴う夜間工事などの影響で108.4%、前年比でも100.4%と増加しています。2007年度は細かな現場の努力の積み上げで、目標達成を目指します。



環境・社会活動の歩み

1990年代の初めから、社内においていち早く環境活動に取り組んできました。
2002年以降は様々な社会貢献活動にも取り組んでいます。



環境・社会活動の情報提供

	社外への情報提供	社内への情報提供
Web	環境ホームページ (毎月更新)	社内環境ポータルサイト (毎月更新)
印刷物	環境・社会活動報告書 (年1回発行)	社内報/環境ニュース (月1回)
店頭活動	商品、広告・表示、 イベント(随時)	社内環境活動 (随時)

環境ホームページ



より多くの方々に、よりタイムリーな環境情報が提供できるように、2006年1月に西武百貨店HPの環境サイトをリニューアルしました。(http://www.seibu.co.jp/usinfo/ecology/index.html) ご協力団体のHPとも連動し、より広範な情報提供を心がけています。また、小学校高学年のお子さま向けに「エコキッズルーム」

(http://www.seibu.co.jp/corporate/ecology/ecokids/index.html)も開設。お買い物クマやカンガエル君も登場し、楽しみながら当社の環境への取り組みをご理解いただけるように工夫しています。

社外とのコミュニケーション

環境イベント・セミナーの開催を数値目標化したことに伴い、キャンペーンへの協力やエコフェアへの出展などが増加しました。

2006年度の案件	件数	おもな内容	前年差
アンケート・調査表への協力依頼	32	環境省、経産省、財務省、厚労省、農水省/容器包装利用・製造等実態調査など行政機関13件 日本百貨店協会/「百貨店の環境対策に関する定期調査」および「百貨店におけるエネルギー使用実態調査」など、他団体・企業4件 「第10回企業の環境経営度」調査等他利害関係者7件	1
キャンペーンへの協力・エコフェア出展、各種応募、申請依頼	40	所沢ワルツ市民講座、豊島区エコライフ講座共催依頼など、行政機関19件 「第3回朝日企業市民賞」第10回環境報告書賞 サステナビリティ報告書賞 応募依頼など8件	+9
外部団体への参加依頼・講師依頼	15	財団法人日本環境協会/こどもエコクラブパートナーシップへの登録依頼 商工会議所「第1回eco検定(環境社会検定試験)」実施の周知依頼 日本百貨店協会/「韓国百貨店協会・訪日研修団に対するセミナー講演」依頼 など	+5
法規制・条例・その他情報	3	廃棄物処理法改正等説明会への参加依頼など	3
苦情・ご意見	0		2
お礼状	3	渋谷店盲導犬訓練士・訓練犬実習受入への礼状 「沼津市中心部拡大清掃実施」に関するお礼	+2
計	93		+10

西武百貨店の事業活動と環境保全活動

百貨店の営業活動では、資源やエネルギーの消費とともに、ごみや温室効果ガスなどの排出が伴います。私たちは、こうした環境への負担を減らすために、さまざまな場面で環境保全活動に取り組んでいます。

商品	包材 梱包材	消耗品
水	電気 262,542[MWh] 2,580,790,632[MJ]*1	ガス 5,016,850[m ³] 210,773,122[MJ]*1
重油	熱供給 46,955,536 [MJ]	ガソリン 350[kℓ]*2 12,101,454[MJ]*1



CO ₂ 116,382[t]*4	容器包装 813[t]*3
排水 1,848[km]	廃棄物 7,305[t]*5



INPUT
投入

OUTPUT
排出

資源
リサイクル
9,827[t]

ダンボール・発泡スチロールなど再資源化..... 9,235[t]
生ごみの再生利用..... 592[t]

環境に配慮した商品提案の推進 (25~26ページ参照)

- 1 資源循環野菜の販売
- 2 環境に配慮した商品の開発・販売
- 3 法人外商部の環境ビジネス

順法とリスクマネジメントの強化

- 4 フロン使用機器のチェック...冷凍冷蔵ショーケースの温度管理を徹底、フロン漏洩防止と安全稼働に努める。

地域社会との共生

- 5 外周清掃...社員たちの手で定期的に周辺地域の清掃実施。
- 6 店内エコ見学会...地域の方が身近に学べる環境教育の場として、店内の環境商品や施設をご案内。

廃棄物の削減とリサイクルの向上

- 7 再生資源を使用した売場ツール...ブライスカード入れやポスターなど。
- 8 お客さま用分別ごみ箱
- 9 百貨店統一ハンガー
- 10 エコ素材の制服...女性社員の制服の素材に再生PETを使用。
- 11 社員用分別ごみ箱
- 12 リターナブルコンテナ納品...納品後は折りたたんでメーカーへ。繰り返し使用してダンボールを減らす。
- 13 ハンガー納品...メーカーから売場までハンガーに吊りして輸送。ダンボールやテープを使いません。

- 14 化粧びんのリサイクル...資生堂と協力。店頭にお持ちいただいた化粧びんは、ガラスびんの原料に再利用。
- 15 容器回収...食品トレー、ペットボトル、牛乳パックなどの回収ボックス設置(一部店舗)
- 16 エコステーション...店舗で発生したごみを分別・保管し、各種リサイクル機器で中間処理も行う(写真は池袋本店生ゴミ処理機)

紙類使用量の削減

- 17 リサイクルボックス...片面使用済みのコピー用紙や新聞・雑誌などを分別してリサイクル。

- 18 コピー使用量の管理...両面コピーを原則とし、部署ごとに枚数も制限。用紙は古紙配合率70%。
- 19 エコ包装...お客さまのご希望をうかがいながらエコ包装をすすめ、不要な包装紙や紙製手提袋の使用を控える。

水資源使用量の削減

- 20 消音装置設置と洗面所の節水

電力使用量の削減

- 21 2up3down運動...従業員は上りは2階分、下りは3階分まで階段を利用。
- 22 こまめな消灯

- 23 外気冷房システム
- 24 納品代行システム...納品商品を納品代行会社の倉庫に一括集荷し、納品便を効率化して店舗への出入り車両を抑制。
- 25 営業時間外納品...夜間や早朝の納品で、交通渋滞による大気汚染・騒音発生を抑制。

重油ボイラーの適正管理

- 26 ボイラーのチェック...使用基準を明確化し操作者の定期訓練を実施。

*1 発熱量換算係数
電力:9.830[MJ/kWh]
環境報告書ガイドライン(2003年度版)
ガス:各ガス供給業者が定める発熱量
13A:46.04655[MJ/Nm³] 6C:20.93025[MJ/Nm³]
重油:39.1[MJ/ℓ] (A重油)
エネルギー源別標準発熱量表の改訂について
(2002年2月 資源エネルギー庁総合政策課)
ガソリン:34.6[MJ/ℓ]
エネルギー源別標準発熱量表の改訂について
(2002年2月 資源エネルギー庁総合政策課)
*2 社用車のガソリン使用量
*3 (財)日本容器包装リサイクル協会
2007年度再商品化委託契約に係る容器包装使用量
*4 CO₂排出量
事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン
(2003年7月 環境省地球環境局)
*5 資源リサイクル分を除く実廃棄量

数値はすべて2006年度の年間合計値です。

2006年度の環境活動結果

環境中期目標「4つの柱と9つの取り組み」について、2006年度の実績と達成度をまとめました。

2006年度の環境目的・目標は、数値目標13項目のうち12項目で達成しましたが、地球温暖化対策の「低公害車導入率」のみ、目標96.6%に対し実績95.6%とわずかに未達成でした。これは走行距離の社内基準で06年度切替台数が当初予定台数を下回ったことが要因ですが、切替残の社用車についてはすでにスケジュール化されており、2007年度中には100%達成予定です。

昨年目標未達成だった「手提袋・包装紙の削減」については、お客さまへの簡易包装おすすめの徹底や、業界全体で取り組んでいる「スマートラッピング運動」とマイバッグ持参促進などを強化し、前年比92.9%と大幅に削減することができました。

また、販売促進用チラシ作成などで期中増加傾向にあったコピー用紙も、マネジメントを強化し、前年比94.0%と大きく削減しました。

定着している外周清掃は全店で820回、延べ参加人数12,606人に及び、10月にはセブン&アイホールディングスグループ全体の合同清掃(11,390社、37,720人で実施し、約78トンのゴミを回収)に全店で1,050名が参加しました。

電力使用量総量や廃棄物総量は、秋田店、有楽町店の大型リニューアル工事などで増加要素はありましたが、2店舗閉鎖の削減と件とマネジメント強化、リサイクルに努め、それぞれ目標比99.3%・前年比95.6%、目標比94.9%・前年比92.6%と削減することができました。特に実廃棄量は、「リサイクル率の向上57.4%(目標+5.5%)」もあり、目標比84.1%、前年比81.4%と大きく削減することができました。

4つの柱	9つの取り組み		実績(目標比、前年比)	達成度	具体的な取り組みと環境保全効果
1 お客さまとのコミュニケーションの強化	環境商品の選定と提案	環境商品選定と訴求強化	11品目 (目標比110%、前年比84.6%)	●	・本年度新たに11品目の環境商品を選定しましたが、別に12品目の取り扱いを中止し、合計では136品目が認定されています。お客さまにわかりやすいように表示も見直しました。
		環境商材売上拡大	44.4億円 (目標比110.9%、前年比82.9%)	●	・法人外商部における環境商材の売上高は44.4億円で、建築ビジネスの中止と関西エリアの他社移管に伴い前年差 9.2億円となりました。
		エコバッグ売上拡大	10,368千円 (目標比116.5%、前年比110.2%)	●	・売上だけでなく発注状況まで点検し定期的に指導したうえで、顧客訴求を強化しました。 ・全店のエコバッグの売上高は10,368千円(前年比110.2%)と2年連続して2桁増となっています。
	スマートラッピングの推進	包装紙・手提袋の削減	250.638kg (目標比94.8%、前年比92.9%)	●	・「エコ包装おためトークシート」を各レジカウンターに整備しています。「販売基本ルール」にも掲載し、新規入店者への研修を徹底しています。 ・「包まないという、地球へのおもいやり。」メッセージシールの形状を使いやすいものに改善し、198,500枚新たに店舗に投入しました。簡易包装や手提袋のおまめを積極的にお客さまにお願いし、包装紙は減少しましたが、手提袋の使用量は増加しました。
2 社会・地域とのコミュニケーションの強化	環境イベントの展開・強化	環境イベントの開催	78回 (目標比222.9%)	◎	・全店で、4月と6月に2回「ライトダウン」を実施。7~8月には「打ち水」を実施しました。 ・その他各店で行政等とも連動し、計78回の環境・社会貢献イベントを開催しました。
	地域との共生	店舗外周清掃の実施	820回 (目標比108.9%、前年比116.1%)	●	・全店で月2回以上の目標に対し、計820回(前年+114回)延べ人数12,606人の参加で実施しました。 ・10月にはセブン&アイグループ合同清掃に1,050名が参加しました。
		地域コミュニケーションの実施	211回 (目標比127.1%、前年比90.2%)	◎	・全店で半年に1回以上の目標に対し、計211回(前年+23回)の地域コミュニケーションを行いました。 ・特に環境キャンペーンやフェア等への協力要請、講師依頼等が40件(前年+9件)と増加しています。
社会との共生(盲導犬育成支援活動)	盲導犬育成事業支援	・店頭募金額は9,062千円(前年比112.6%)でした。05年6月に発足した社内募金「西武ワン!コイン倶楽部」は1年間で8,512千円に達し、お預かりした店頭募金9,062千円と、「西武ミレニアム基金」からの拠出金10,000千円は全国の盲導犬育成団体に寄付しました。 ・盲導犬ふれあいキャンペーンを全店で年2回ずつ実施し、その他にも八尾店「盲導犬チャリティコンサート」、岡崎店「ワン!コイン福引抽選会」のような独自の支援イベントも実施しました。 ・06年10月には、これらの支援活動が評価され、朝日新聞社の「第3回朝日企業市民賞」をいただきました。			
3 環境負荷の低減と環境保全活動の推進	「地球温暖化」対策	電力使用量の削減	電力使用量原単位 139.07Wh/(㎡・h) (目標比99.2%、前年比100.4%) 使用量 262,542,282kwh (目標比99.3%、前年比95.6%)	●	・空調機修繕やビルコン更新、デマンド監視・制御装置更新等の投資工事を実施しました。 ・社員食堂などに電力メーターを増設し、きめ細かな使用量目標に基づいた管理を推進。また、店内照明に省エネランプを使用し、店内改装時には消費電力の少ない蛍光灯タイプの照明器具へ交換を行っています。 ・全店でライトダウンキャンペーンを2回実施し、ネオン照明等の消灯を行いました。これにより約1,600kWhの電力が削減されました。
		温室効果ガス排出量の削減	・温室効果ガス排出量算定ルールに基づき、2006年度排出量を算定。6月末までに算定報告(予定) 設備改善による温室効果ガス排出抑制効果の算定に向け、対象となる投資案件と活動量を整理。		
		社用車の低公害車切替	社用車の低公害車導入率 95.6% (目標比1%、前年比+3.9%) 低公害車数 237台 (目標比98.8%、前年比97.1%)	▲	・自動車使用管理計画書(自動車NOx/PM法)に基づいて「低公害車導入」「車両走行量削減」「適正運転」の取り組みを行い、その結果を実績報告書にまとめ、東京都・大阪府へ提出しました。 ・低公害車導入数:237台、低公害車導入率:95.6%(前年比+3.9%)で、目標に対し3台分未達でした。今年度中の100%切替を予定しています。
	重油ボイラーの適正管理	・管理標準書(省エネ法)における重油ボイラーの管理内容について、経済産業局現地調査結果を踏まえ、管理標準書を見直し、管理レベルの向上を図りました。 (船橋店・大津店・福井店・旭川店)			
	「循環型社会」の推進	廃棄物の削減	実廃棄量 7,304,622kg (目標比84.1%、前年比81.4%) 廃棄物総量 17,131,312kg (目標比94.9%、前年比92.6%)	●	・全店で廃棄物の適正処理状況を確認するため、廃棄物処理ルートの実査を行っています。実査の結果、処理状況に問題はありませんでした。 ・生ごみ処理機からできたコンポスト(堆肥)を使用し生産された農産物を店頭で販売するという資源循環システムが池袋本店と秋田店で継続的に稼働中。
		リサイクル率の向上	リサイクル率	57.4% (目標比+5.5%、前年比+5.9%)	●
リサイクル量			9,826,690kg (目標比104.9%、前年比103.2%)	●	・回収処理済み商品券23tをトイレトーパーにリサイクルしました。
省資源の推進	事務用紙納品量削減	102,686kg (目標比95.2%、前年比94.0%)	●	・店舗大型改装に伴う販売促進等により使用量は増加傾向でしたが、マネジメントを強化し、前年よりも削減しました。	
4 コンプライアンスとリスクマネジメント	順法とリスクマネジメントの強化	水資源使用量の削減	下水道使用量原単位 0.981ℓ/(㎡・h) (目標比96.4%、前年比94.1%) 使用量 1,848,361㎡ (目標比96.4%、前年比88.7%)	●	・全店の社員食堂で使用量目標を設定し毎日使用量を点検、目標の達成状況を確認しました。 ・トイレの擬音装置の電池切れをこまめに点検し、活用を促進しました。
		フロン管理の徹底	・冷凍ケースは1日2回(10時、15時)の庫内温度点検を継続実施しています。環境法規制順守チェックシートによりフロン類の適正引渡し状況を年2回確認し、フロン類使用機器の廃棄時には、第1種フロン類回収業者へフロン類の適正な引渡しを行いました。		
		PCB管理の徹底	・PCB廃棄物のうち、静岡店分は店舗閉鎖に伴い家主に移管、渋谷店分も家主管理に移管しました。保管中の3店舗(池袋本店・札幌店・沼津店)については保管状況の確認を行い、行政への届出を行いました。PCB廃棄物の適正処理に向けて、日本環境安全事業株式会社へ処理委託早期登録を行っています。		
		薬品管理の徹底	・運用管理等について規程を見直し、特定教育及び緊急事態対応手順テストを業務委託先従業員含めて実施しました。また、化学薬品の保管場所や使用場所においても手違いの生じないように色分け・表示を徹底しました。		
管理活動	テナント管理(環境教育)	・本部では月例のテナント部・課長会で、マネジメント対象の教育を実施し、各店舗ではその部課長が各テナント責任者の指導にあたっています。 ・新店や改装時のテナント説明会では、環境対応チェックシートを活用して取り組み喚起に努めています。			
	環境マネジメントシステム運用	・2007年1月実施のISO14001定期審査において改善指摘事項はありませんでした。			
	環境情報開示	・各店舗の店長が地域行政を訪問し西武百貨店への要望を伺うなど、環境・社会活動報告書を用いたコミュニケーションを行いました。 ・お取引先社員やテナント従業員、業務委託先従業員の方々などに対してリーフレットを活用して当社の環境教育を実施し、また、ご希望のお客さまにも積極的に配布し、情報開示に努めました。			
環境教育	・新たに4名が内部環境監査員資格を取得し、内部環境監査員資格保有者は合計90名となりました。				

達成度: ◎.....大幅達成(目標に対して20%以上の超過達成) ●.....達成 ▲.....やや未達成(目標に対して20%以下の未達成) ×.....未達成(目標に対して20%を超える未達成)

2006年度 店舗の環境目標達成状況

主要な取り組み項目の環境目標達成状況を、店舗ごとにまとめました。

店舗名 営業総面積(㎡)	2006年度実績						備考
	実廃棄量	リサイクル量	包装紙・手提袋納品量	下水道使用量	電力使用量	達成度	
池袋本店 91,205	年間総量	1,904t	2,784t	99.10t	522,139㎡	63,873MWh	食品フロアの使用量減少で包装紙・手提袋使用量は目標内で運用 メンテナンス工事の夜間実施に伴い電力使用量は増加
	参考指標	売上百万当り 13.0kg	リサイクル率 59.4%	百客当り 419.7g	原単位 1.619ℓ/(㎡)	原単位 198.15Wh/(㎡)	
渋谷店 42,945	年間総量	391t	736t	13.29t	131,850㎡	25,712MWh	お客さまへの簡易包装呼びかけ強化により包装紙・手提袋使用量を削減 改装・耐震工事の夜間実施などにより電力使用量は増加
	参考指標	売上百万当り 7.9kg	リサイクル率 65.3%	百客当り 241.6g	原単位 0.807ℓ/(㎡)	原単位 157.38Wh/(㎡)	
有楽町店 15,492	年間総量	70t	196t	4.41t	30,152㎡	6,868MWh	06年秋の改装により包装紙・手提袋量が増加 電力使用量、下水道使用量は前年より増加するも目標内で運用
	参考指標	売上百万当り 4.1kg	リサイクル率 73.6%	百客当り 366.3g	原単位 0.511ℓ/(㎡)	原単位 116.48Wh/(㎡)	
所沢店 25,011	年間総量	585t	591t	16.07t	92,574㎡	12,526MWh	ダンボール廃棄の増加でリサイクル量増も、雑芥類も増えリサイクル率は低下 夏の気温上昇や暖冬影響で冷房稼働時間増、年間電力使用量が超過
	参考指標	売上百万当り 27.4kg	リサイクル率 50.2%	百客当り 320.7g	原単位 1.027ℓ/(㎡)	原単位 138.89Wh/(㎡)	
船橋店 34,692	年間総量	394t	402t	15.98t	172,625㎡	21,465MWh	行政及び地域商店会とも運動した活動により「環境にやさしいお買い物」とエコバッグをアピール、包装紙・手提袋使用量削減
	参考指標	売上百万当り 15.2kg	リサイクル率 50.5%	百客当り 329.7g	原単位 1.126ℓ/(㎡)	原単位 139.98Wh/(㎡)	
筑波店 25,028	年間総量	182t	308t	13.63t	55,575㎡	9,541MWh	閉店後の消灯等再徹底し夜間電力使用量を削減、食品・飲食テナントで節水徹底し下水道使用量も削減 生ゴミのリサイクルによりリサイクル量増加
	参考指標	売上百万当り 9.3kg	リサイクル率 62.9%	百客当り 356.5g	原単位 0.604ℓ/(㎡)	原単位 104.74Wh/(㎡)	
東戸塚店 35,955	年間総量	103t	1,272t	8.30t	121,728㎡	18,272MWh	女子用トイレ自動洗浄の見直しや時間外送電を削減 エコステーションでの分別処理徹底によりリサイクル量大きく改善
	参考指標	売上百万当り 4.8kg	リサイクル率 92.5%	百客当り 86.5g	原単位 0.884ℓ/(㎡)	原単位 132.31Wh/(㎡)	
高槻店 39,676	年間総量	634t	821t	8.81t	155,956㎡	21,486MWh	スマートラッピング推進により包装紙・手提袋使用量を削減 ダンボールをはじめとした分別の徹底により、リサイクル率を向上
	参考指標	売上百万当り 28.3kg	リサイクル率 56.4%	百客当り 114.1g	原単位 1.042ℓ/(㎡)	原単位 143.6Wh/(㎡)	

表の見方

目標達成度
各サイトの2006年度目標に対する実績を表します。
 目標を達成した(目標比100%以上)
 目標を若干下回った(80%以上100%未満)
 × 目標を達成できなかった(50%以上80%未満)

店舗名 営業総面積(㎡)	2006年度実績						備考
	実廃棄量	リサイクル量	包装紙・手提袋納品量	下水道使用量	電力使用量	達成度	
八尾店 40,508	年間総量	1,046t	495t	9.56t	151,295㎡	18,601MWh	廃棄物総量の減少に伴いリサイクルごみ量も低下したが、分別仕分けの徹底によりリサイクル率は前年より向上
	参考指標	売上百万当り 50.7kg	リサイクル率 32.1%	百客当り 166.5g	原単位 1.02ℓ/(㎡)	原単位 125.44Wh/(㎡)	
札幌店 29,837	年間総量	333t	282t	7.95t	71,866㎡	12,497MWh	廃棄物総量の減少に伴い実廃棄量・リサイクル量ともに減少 冷凍機メンテナンスで効率UP。暖冬によるロードヒーティング削減で使用電力量は低下
	参考指標	売上百万当り 22.3kg	リサイクル率 45.8%	百客当り 240.5g	原単位 0.674ℓ/(㎡)	原単位 117.12Wh/(㎡)	
福井店 26,154	年間総量	327t	222t	11.03t	79,277㎡	10,136MWh	食品拡大により廃棄物増も、ゴミ分別の徹底によりリサイクル率を改善 客用トイレ増改修で下水道使用量増
	参考指標	売上百万当り 20.1kg	リサイクル率 40.4%	百客当り 342.5g	原単位 0.876ℓ/(㎡)	原単位 111.95Wh/(㎡)	
秋田店 12,364	年間総量	226t	427t	7.83t	47,009㎡	6,920MWh	コンポストを活用した生ゴミリサイクルにより実廃棄量が大幅減少 06年3月改装による売場面積増で電力量、下水道使用量ともに増加も原単位では前年改善
	参考指標	売上百万当り 23.5kg	リサイクル率 65.4%	百客当り 282.6g	原単位 0.796ℓ/(㎡)	原単位 117.14Wh/(㎡)	
沼津店 9,667	年間総量	76t	160t	11.02t	35,319㎡	4,046MWh	廃棄物総量が大幅に減少するなか、リサイクルごみ量も減少、リサイクル率は前年より向上
	参考指標	売上百万当り 7.7kg	リサイクル率 67.9%	百客当り 660.1g	原単位 1.008ℓ/(㎡)	原単位 115.43Wh/(㎡)	
大津店 28,707	年間総量	656t	616t	9.73t	86,651㎡	14,897MWh	包装紙・手提袋使用量はわずかに目標超過(100.8%)ながら前年より削減 受水槽改修工事により、下水道使用量が減少
	参考指標	売上百万当り 45kg	リサイクル率 48.4%	百客当り 232.3g	原単位 0.802ℓ/(㎡)	原単位 137.87Wh/(㎡)	
旭川店 30,091	年間総量	246t	257t	7.82t	54,999㎡	9,788MWh	改装工事に伴う電気暖房・照明器具使用増で電力使用量が増加
	参考指標	売上百万当り 23.6kg	リサイクル率 51.1%	百客当り 288.2g	原単位 0.525ℓ/(㎡)	原単位 93.45Wh/(㎡)	
岡崎店 16,472	年間総量	132t	258t	6.11t	39,346㎡	5,741MWh	廃棄物総量減少に伴いリサイクルごみ量減少も、リサイクル率では目標達成 天候与件により冷暖房増で電力使用量が増加
	参考指標	売上百万当り 12.9kg	リサイクル率 66.2%	百客当り 234.8g	原単位 0.612ℓ/(㎡)	原単位 89.29Wh/(㎡)	

2006年度 環境会計

環境保全への取り組みを、環境保全活動のコストと効果で定量的に評価しました。
環境保全効果のうち、「取り組みの成果」については、
12ページに具体的な取り組み内容とともに記載しています。

(単位：百万円)

環境目的・目標	具体的な取り組み	環境保全コスト			経済効果	環境保全効果	
		投資	経費	総額		物量効果	
環境商材売上拡大	・包材・資材・環境機器の拡販	0	0	0	698.5		
エコバッグ売上拡大	・基準品揃えと発注状況の週次・月次点検	0	0	0	2.6		
	小計	0	0	0	701.1		
地域コミュニケーションの実施	・クマちゃんのどんぐりを育てようキャンペーン(隔月) ・エコバッグ収益金の一部寄付 ・地域環境フェアへの出展、環境講座の実施、店内見学会の開催	0	2.6	2.6	0		
	小計	0	2.6	2.6	0		
電力使用量の削減	池袋本店 照明器具・コンセント改修 有楽町店 空調機修繕工事、ビルコン更新工事 沼津店 デマンド監視・制御装置更新、冷暖房温度監視盤更新 他	66.0	0	66.0	164.3	電力使用量 前年差 12,209,093kwh削減 (前年比95.6%)	
社用車の低公害車導入拡大	・リース期間満了時に随時低公害車へ車種変更 ・適正な整備と適切な運転 ・社用車ユーザーへのアドリングストップ啓発	0	0	0	3.7	ガソリン・軽油使用量 前年差24.6kl削減	
重油ボイラーの適正管理	池袋本店本館ボイラー設備改修	2.9	0	2.9	0		
廃棄物の削減	東戸塚店 ゴミ処理場設備機器改修 池袋本店 ゴミ運搬備品改善	2.8	654.8	657.6	29.9	廃棄物総量 前年差1,319t削減 実廃棄量 前年差1,624t削減	
容器包装リサイクル	・容器包装リサイクル法対応 ・一部店舗容器回収 (牛乳パック、ペットボトル、食品トレー)	0	19.3	19.3	0	手提袋・包装紙納品量 前年差19t削減 (前年比92.9%)	
製品・商品等のリサイクル	回収処理済み商品券(23t)のリサイクル (トイレトペーパー化)	0	0.5	0.5	0		
下水道使用量の削減	・社員食堂残飯流し場の流量適正化 ・トイレ節水システムの活用 ・トイレ擬音装置の活用	0	0	0	46.6	下水道使用量 前年差235,190m ³ 削減 (前年比88.7%)	
	小計	71.6	674.6	746.1	244.5		
フロン管理強化	船橋店 ピーマック空調機更新工事(8台) 高槻店 基本空調設備改修、レストラン東空調圧縮機改修 旭川店 空調機改修工事 他	121.5	0	121.5	0		
	小計	121.5	0.0	121.5	0		
環境マネジメント活動	・環境管理委員会運営 ・内部環境監査 ・ISO14001定期審査 ・人件費	0	52.2	52.2	0		
環境情報公開	・環境・社会活動報告書の発行 ・エコガイドリーフレットの作成・配布	0	5.7	5.7	0		
環境教育	・内部環境監査員研修、スキルアップ研修 ・e-ラーニングによる全社員教育	0	2.1	2.1	0		
	小計	0	60.0	60.0	0		
	総計	193.0	737.1	930.2	945.6		

取り組みの成果
12ページに記載

小数点以下第1位を四捨五入していますので、小計・合計欄と各項目の単純合計は一致していません。

グリーン購入・調達

事務用品をはじめ、包装用品、販売促進ツールなどの用度品についても環境に配慮し、グリーン購入を推進しています。

環境会計の目的と考え方

ISO14001に基づく環境保全活動を、効果とコストから評価し、今後の計画に反映するための経営指標の一つとして、また、西武百貨店の環境保全活動に対する理解を深めていただくためのツールとして使用します。

対象期間と集計範囲

2006年3月1日～2007年2月28日(西武百貨店会計年度)
環境マネジメントシステムの対象となる全事業所の集計

集計内容の基準

環境保全コストの算定基準

- ・投資および経費の中で、活動目的が環境保全以外に多岐にわたっている複合的な場合は、主たる目的が環境保全である場合のみその全額を計上し、差額集計・按分計算は行っていません。
- ・減価償却費は計上していません。
- ・人件費は専任スタッフ分と店舗事務局の業務シェアで算出しました。

経済効果の算定基準

- ・それぞれの環境保全活動の取り組みによって、利益に貢献した効果を計上しています。
- 収益
実施した環境保全活動の結果として、当期において実現した財務会計上の収益
- 費用節減
実施した環境保全活動の結果として、前期の費用から削減された費用
- ・実質的な効果を算定の対象とし、回避されたリスクに関する推定的な効果は算定の対象としていません。

環境保全効果の算定基準

- ・それぞれの環境保全活動の取り組みによって、環境負荷の低減に貢献した効果を算定の対象としています。
- ・物量効果
・実施した環境保全活動の結果として前期の投入(排出)量から減少された量、または、拡大した量・実施率

参考としたガイドライン

環境省発行(2005年2月)「環境会計ガイドライン2005年版」を参考に環境目的・目標に沿った集計を行いました。

集計結果に対する説明

- ・投資額は1億9,300万円になりますが、2006年度投資案件は既存設備の老朽化更新が主な目的のため、更新に伴う効率改善や、前年の波及効果は計上していません。
- ・経費は主に廃棄物処理の委託費ですが、実廃棄量の削減により経費も2,990万円削減し、その分は経済効果に計上しています。
- ・経済効果は、法人外商部の環境商材とエコバッグの売上収入および電力使用量・下水道使用量等の削減に伴う経費減を計上しています。

事務用品をはじめ包装用品、販売促進ツールなどの用度品調達についても、環境配慮を行っています。

事務用品については「グリーン購入法 判断基準及び配慮事項」を参考に調達しています。コピー用紙については、判断基準「古紙パルプ配合率100%かつ白色度70%程度以下」に対し、印刷用紙としても共用し、お客さまにお控えとしてお渡しする場合もあるため、「古紙パルプ70%以上、白色度80%程度」を使用しています。

「グリーン購入法」の対象となっていない包装紙や紙製手提袋などについては、古紙配合率30%以上を使用しています。販売促進用のポスターやチラシ、お客さまへお送りするDMなどは、再生紙のほかに植林木無塩素漂白パルプも使用しています。

女性社員のユニフォームは綿・ウールと再生ペット素材ポリエステル混紡です。また、販売員用のカードは生分解できるPETG素材を使用しています。お取引先にもご協力いただきながら、購入基準の引き上げと対象分野の拡大を推進しています。

グリーン購入配慮事項

	用度品	素材他環境配慮理由
消耗品	コピー用紙	古紙パルプ70%以上白色度80%程度
	社用封筒	古紙配合率40%
	レターファイル	古紙配合率100%
	トイレトペーパー	古紙配合率100%
包装用品	一般包装紙	古紙配合率30%以上
	基本手提袋	古紙配合率30%以上
	一般用ポリ手付袋	ポリエチレン
	内装箱・外装箱	古紙配合率80%以上
販売関連	カードスタンド	再生PET素材
	ハンガー	ポリプロピレン
	ポスター・チラシ	再生紙または植林木無塩素漂白パルプ
	DMはがき・封筒	再生紙または植林木無塩素漂白パルプ
社員関連	名刺	古紙配合率70%
	販売員カード	PETG素材(生分解)
	女性社員ユニフォーム	再生PET50%(ブラウス28%)

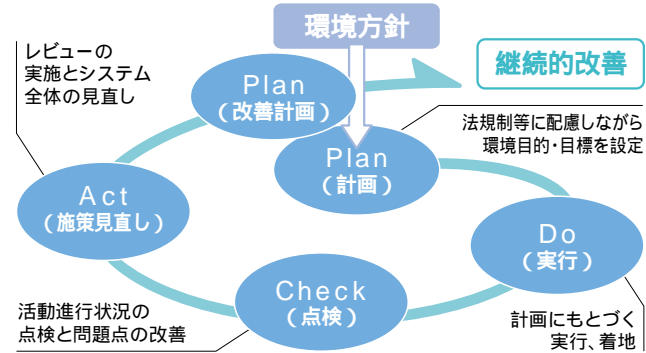
環境マネジメントの仕組みと運用状況

西武百貨店は着実に持続的な環境活動を実践するために、国際規格ISO14001にもとづいた環境マネジメントシステム(EMS)を導入しています。

西武百貨店の環境マネジメントシステム

国際規格ISO14001にもとづき、PLAN(目標・計画) DO(実施と運用) CHECK(実施結果の監視と測定) ACT(是正処置、経営層による見直し)のサイクル(略称・PDCAサイクル)に沿った、持続的・発展的な環境マネジメントを行っています。

継続的な改善をはかる「PDCAサイクル」が基本



ISO14001登録状況	
登録番号	JQA-EM0401
審査機関	財団法人日本品質保証機構
登録範囲	株式会社西武百貨店 全店・全事業所、株式会社ミレニアムリテイリング MD統括部、総務部
登録日	1999年4月9日
次期更新	2008年4月8日

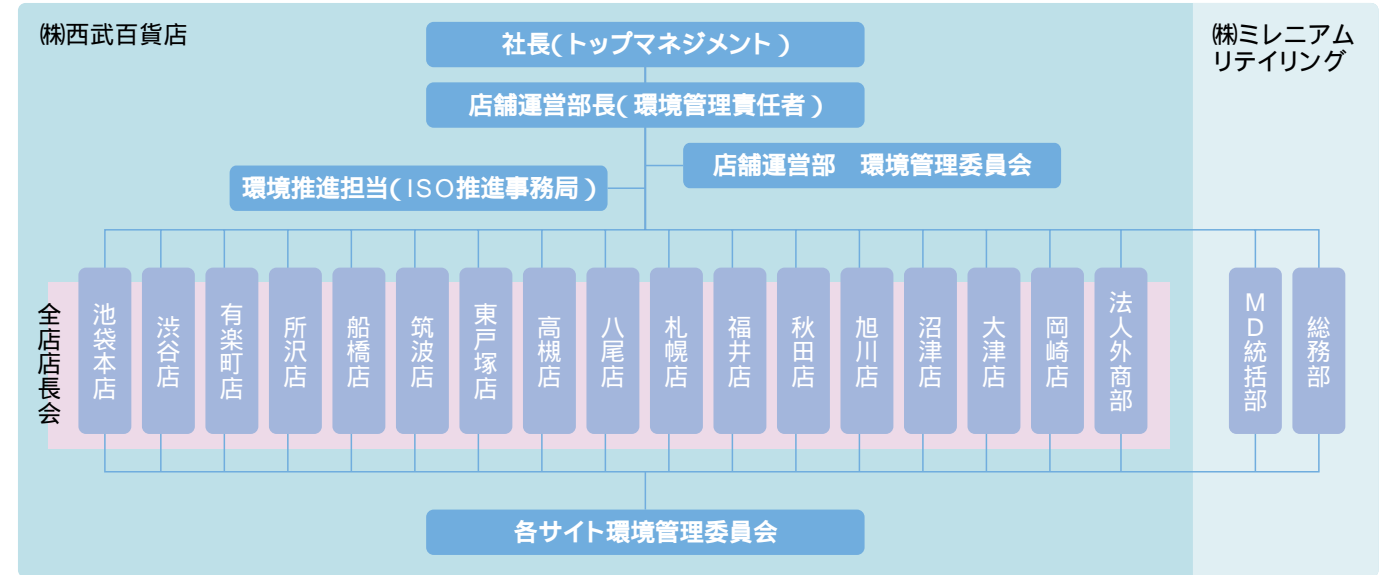
環境マネジメントのための組織体制

環境マネジメントシステムは、トップマネジメントである社長のもと、店舗運営部長を環境管理責任者とし、西武百貨店16店舗、2事業所(店舗運営部、法人外務部)ならびに西武百貨店の事業活動に不可欠な部門として2004年5月に拡大審査を受審し、ISO14001の登録範囲に統合したミレニアムリテイリング2部門(MD統括部、総務部)の全20サイトで構成されています。

各サイトがそれぞれ環境管理委員会を組織し、店長や部門長を委員長としてPDCAサイクルにもとづく活動を行い、環境管理責任者が委員長を務める店舗運営部環境管理委員会が各サイトの活動を統括しています。各サイトの活動を統括するためには、幅広い情報と審議が必要となるため、店舗運営部環境管理委員会は代表店舗4店・法人外務部・ミレニアムリテイリング2サイトからも委員が任命されています。また、サイト間の相互コミュニケーションは、全店店長会を通じて行われています。



JQA-EM0401



「環境マネジメントシステム(EMS)」にもとづく1年間のおもな活動

	PLAN (計画)	DO (実施・運用)	CHECK (監視・測定)	ACT (是正・経営層による見直し)
3月	環境目的・目標の設定 推進体制の見直しと環境管理委員会メンバー発令	環境マネジメントシステム文書 定期見直し	第4四半期(12~2月) および年間目標達成状況報告	全社マネジメントシステムの見直し(環境方針、環境目的・目標など)
4月 (自社環境記念日)	月次で実施 環境管理委員会開催と進捗確認 入店時環境教育、環境デー教育 法令、条例等の確認	排水水の状態点検	法規制等順守状況点検	
5月	随時実施 社内外コミュニケーション 不適合予防是正処置	特定業務従事者訓練		
6月 (環境月間)		エネルギー管理指定工場 中長期計画書・実績報告書提出 温室効果ガス排出量報告	第1四半期(3~5月) 目標達成状況報告	サイト別 自主点検
7月		廃棄物処理ルート実査 緊急事態発生時対応手順テスト		
8月		煤煙測定		
9月	環境目的・目標の見直し(修正) 推進体制の見直しと下期メンバー発令		第2四半期(6~8月) 目標達成状況報告	
10月 (環境にやさしい 買い物キャンペーン)		法定資格保有者の確認 特定業務従事者訓練 環境マネジメントシステム文書の 最新版配布・管理状況確認	法規制等順守状況の点検	
11月	環境側面の定期見直し	層別環境教育 (eラーニング、全社員環境アンケート)	サイト別自主点検 内部監査員研修	
12月			第3四半期(9~11月) 目標達成状況報告	内部監査
1月				ISO14001審査
2月		煤煙測定		環境マネジメントシステムの見直し(各サイト)

環境教育による環境意識の向上

環境マネジメントを支える従業員一人ひとりの環境意識を高めるため、定期的な研修や訓練を継続しています。

新規入店者研修と定例教育

西武百貨店では、新たに入店する契約社員(パートナー)、お取引先からの派遣社員(ダリアスタッフ)、テナントや業務委託先社員などすべての従業員を対象に、入店時に「販売基本ルール」にもとづいた環境方針や環境への取り組みについての研修を実施しています。特に今回は、簡易包装への取り組みを強化しました。その中で「私の環境宣言」として、各自が日々の業務の中で重点的に取り組む環境活動を設定し、主体的に取り組んでいくよう教育しています。

また、店舗ごとに毎週1回「環境デー」を設け、全社共通の「環境テーマ」にもとづいた教育の徹底を図っています。「環境ニュース」では各店の環境トピックスや社外の環境活動などについて紹介し、情報の共有化も行っています。

環境eラーニング

本社員を対象にインターネットを使った環境教育「環境eラーニング」を導入しています。これには、一定のレベルで学習し、学習履歴が残り、何より各自の都合のよい時間に学習できるといった利点があります。パートナー社員、ダリアスタッフ、テナント・業務委託先社員にも「簡易版eラーニング」を拡大し、どちらも毎年1回実施しています。

内部監査員養成研修とスキルアップ研修

内部監査員新規認定のため、年に2回養成研修を開催、修了研修に合格すると社内資格を取得することができます。2006年度は新規に4名の内部監査員が認定され、計90名となりました。内部監査員は、6月と11月に自サイトの活動をチェックする「環境定期点検」と、12月に店舗間で相互に監査を行う「内部監査」の計3回の点検を行います。

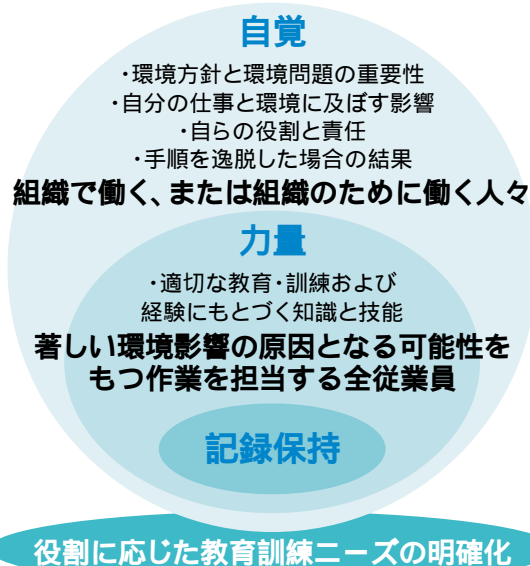


また、内部監査員の資格取得者を対象に、年1回スキルアップ研修を開催し、正しい内部監査を行うための監査技術の維持・向上に努めています。一度資格を取得しても、この研修を受講しなければ、その年度の内部監査を行うことはできません。2006年度は新任4名を含む39名が内部監査員に任命されました。

専門教育・訓練

「著しい環境影響の原因となる可能性をもつ業務を担当する」全従業員に、専門教育を実施しています。対象者は、PCB・フロンなど環境有害物質を扱う従業員、廃棄物の処理を行う従業員、自家発電設備およびボイラーの運転を行う従業員、化学薬品を扱う従業員、テナント部課長会で教育、指導にあたる社員、エコバッグの発注・販売に携わる社員で、年に2回教育・訓練の受講を義務付けています。

従業員に対する環境教育の考え方



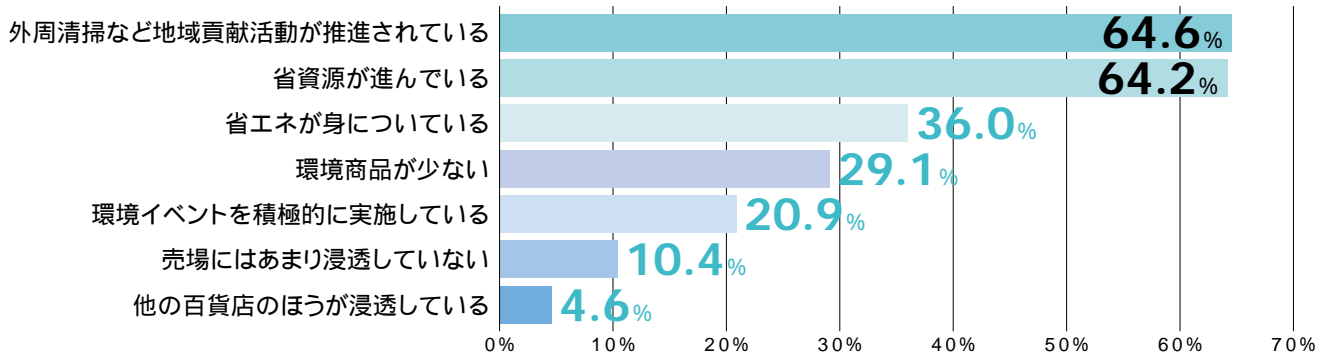
社員の環境意識

全社員アンケートから

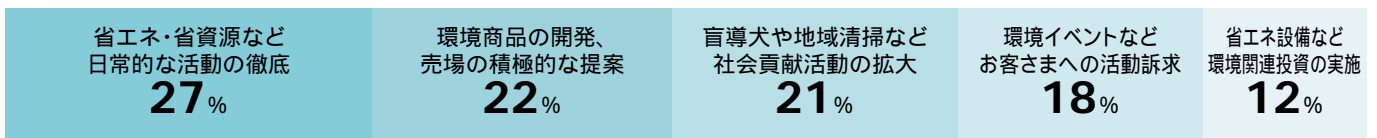
2006年10月～11月に、環境eラーニングとともに、会社の環境推進・社会貢献活動に関する質問と、自分自身の日常生活におけるエコチェックを実施しました。

2,772名の社員からのフリーアンサーは延べ2,236件にものぼり、環境推進・社会貢献活動への関心の高さがうかがわれますが、同時に課題も見えてきました。

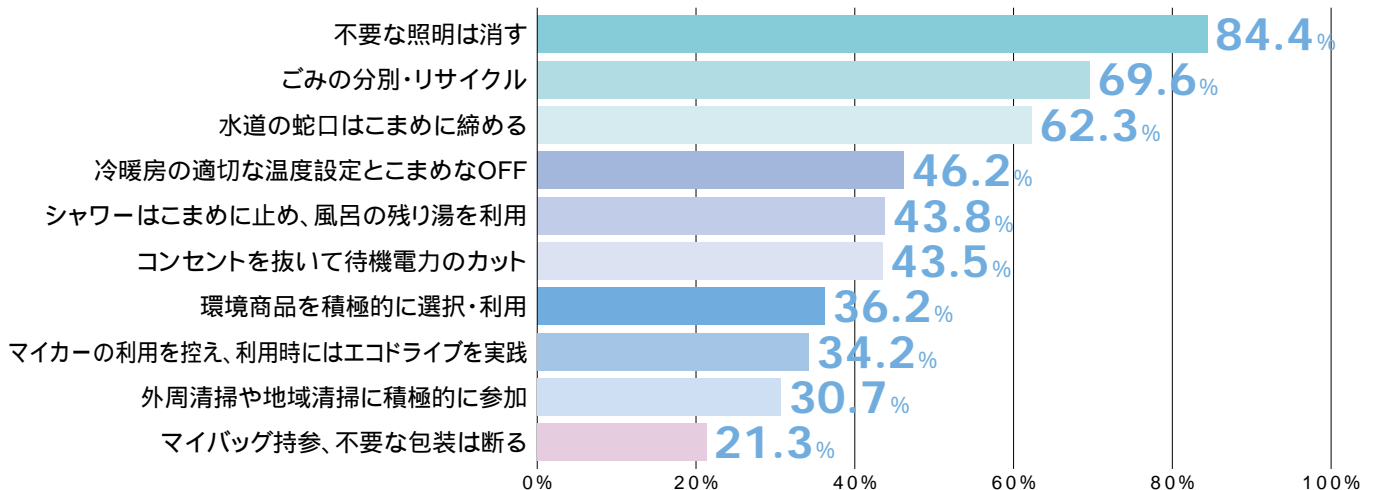
西武百貨店の環境推進・社会貢献活動についてどう思いますか?(複数選択)



西武百貨店として重点的に取り組むべき活動は?(1つ選択)



あなた自身が日常生活でも実行していることはどれですか?(複数選択)



アンケート結果分析

会社の活動は売場にも浸透しており、外周清掃などの地域活動やコピー削減などの省資源は評価が高い。

一方で、百貨店の特性である環境商品の展開や、2006年度より重点項目として取り組みを強化した環境イベントの実施については評価が不十分。

今後の活動として、省エネ・省資源など日常的な活動の再徹底が重要との意見が多い。

個人の活動としては、エコドライブやマイバッグ持参の実践促進が必要であり、外周清掃は評価が高い一方で、参加したいが方法がわからないといった声もあり、全社員運動としての一層の広がりが課題。

環境マネジメントシステムの点検と改善

EMSの運用状況をセルフチェックする内部環境監査や外部機関による定期審査により継続的な仕組みの改善に努めています。

内部監査の実施

ISO14001登録全サイトを対象に、年1回内部監査を実施しています。2006年度は12月4日から28日にかけて、社内資格を取得した主任監査員9名、監査員21名で実施しました。

各サイト70問以上の設問に対し、全サイトで重大な不適合はなく、良好率は93%と、ほぼ適切に維持されている水準でしたが、審査レベルを上げたため、軽微な不適合が29件(前年8件)と大幅に増加し、前年比3.6%ダウンとなりました。

サイト別には「前年より改善」が8サイト、「前年維持」3サイト、「前年より悪化」が10サイトとなっており、店舗間格差は前年に引き続き拡大の傾向が見られるという課題を残しました。

今後は新規入店者に対する教育の徹底と、それを実践する現場での活動の活性化を図っていきます。

渋谷店トップインタビュー



旭川店後方部門インタビュー



札幌店店頭インタビュー

項目別指摘件数

(単位:件)

	合計	重大な不適合	軽微な不適合	観察事項
環境方針	2			2
環境側面	1			1
法的要求事項	13		10	3
目的・目標・実施計画	6			6
体制および責任	5		1	4
訓練、自覚および能力	8		3	5
コミュニケーション	3			3
文書管理	16		6	10
運用管理	9		4	5
緊急事態への準備対応	0			
監視および測定	0			
順守評価	3		3	
不適合是正・予防措置	3		1	2
記録管理	1			1
内部環境監査	2		1	1
マネジメントレビュー	1			1
合計	73	0	29	44
推奨事項	19			

環境法規制などに対する順守状況

西武百貨店の事業活動に関連する公害防止、廃棄物など17分野41の法律について、年2回、全店舗で170項目以上にわたってチェックシートを作り、順守状況を点検しています。特に2006年度は、改訂のあった省エネルギー法、地球温暖化対策推進法、容器包装リサイクル法などについて重点的にチェックしました。

環境に関する法令や社会的要請が益々強まってくくなか、改訂となった地域条例の抽出もれが一部で見られるなどの問題点も指摘されました。

2006年度は法違反となるものはありませんでしたが、電気主任技術者やエネルギー管理員など法的に資格が必要となる管理者の予備人員確保は継続的な課題であり、資格取得のサポートや業務委託先との連携などの改善を進めています。

ISO14001 定期審査報告

2007年1月に定期審査を受審、
環境マネジメントシステムが維持管理されていることが確認されました。

審査実施日	2007年1月24日～1月26日		
審査機関	財団法人 日本品質保証機構		
審査対象	8サイト(5店舗、西武百貨店2部門、ミレニアムリテイリング1本部)、トップマネジメント(社長) 環境管理責任者(店舗運営部長)		
審査結果	改善指摘事項カテゴリーA (システムに関する手順の構築が欠落)	=	0件
	改善指摘事項カテゴリーB (システムの一部に欠陥が存在)	=	0件
	改善の機会 (改善の検討を行うべきもの)	=	9件
	ストロングポイント (特筆すべき秀逸な事項)	=	0件



トップマネジメント・インタビュー

(秋田店)

JQAによる定期審査
(筑波店)



審査登録機関所見

2005年1月に更新審査、2006年1月に定期・移行審査を行いました。今回は21サイトのうち8サイトをサンプルとして定期審査を行いました。

認証から8年が経過し、その間2回の更新審査を受審されていることもあり、環境マネジメントシステムが整備され、環境目標を達成するために全従業員が力を合わせて良好なパフォーマンスを発揮していることが確認できました。

それぞれのサイトが様々な従業員によって構成されているため、環境マネジメントシステムの維持にあたっては教育体制がとりわけ重要になりますが、入店時の集合研修、週次の環境朝礼に加えて毎年実施されている「環境eラーニング」による教育は、西武百貨店の環境活動全般が適切に理解でき従業員のさらなる自覚の向上を図るものになっています。

また2006年12月に内部監査が行われていますが、「内部監査員スキルアップ研修」により監査員各自の知識向上を図ったうえで実施されており、適切な監査を実施するために有効に機能していると判断します。

審査結果として、今回も重大な指摘事項はありませんでした。ただし、環境側面や力量評価などで計9件の「改善の機会」がありました。

今後の活動として、これまでの活動で省エネ・省資源は相当進んでいますが、今年度改訂した「環境方針」にもあるよう、百貨店の営業活動の中で顧客への働きかけを強め、挑戦的な目標を持って影響を及ぼすことのできる側面の強化を図っていくことが重要と考えます。

財団法人日本品質保証機構(JQA)

審査員 白川幸夫

環境にやさしい店舗づくりと店舗オペレーション

「京都議定書」によるCO₂等温室効果ガスの削減目標年度の開始が、2008年に迫っています。西武百貨店でも外気冷房システムの導入など設備改善を進めるとともに、従業員一人ひとりが環境に配慮した行動をとることで、環境負荷の軽減に努めています。

従業員一人ひとりの“環境意識”の高まりと日々の行動で電気を大切に使いCO₂の排出を防いでいます

事務所や倉庫などの蛍光灯を個別スイッチに替え、離席時など使用時以外の消灯を徹底。バックヤードでも不要な蛍光灯は取り外し、過剰照明をなくしています。

また、エレベーターの使用を控え、商品移動以外は階段を利用する

「2up3down運動」の実行や、計画的な業務遂行による営業時間外送電の削減など、従業員一人ひとりの行動で電力使用量の低減に努めています。

設備面でも消費電力の少ない蛍光灯への切り替

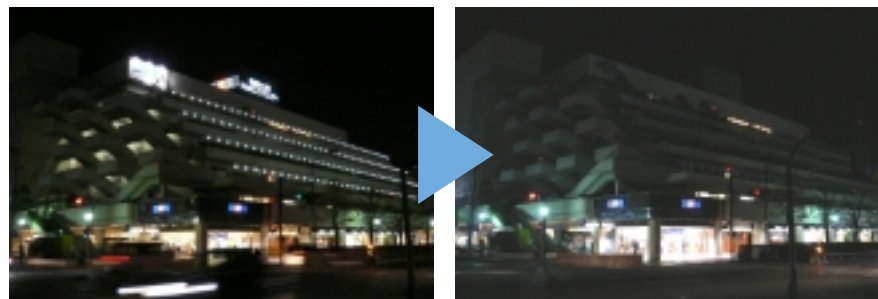


お客さまも参加しての秋田店「打ち水大作戦」

温室効果ガス排出量削減に向けて多面的な取り組みを推進しています

西武百貨店は05年2月の京都議定書の発効に先立ち、03年度より04年度にかけ環境省主催で行われた「温室効果ガス排出量取引試行事業」に小売業を代表して参加。池袋本店をモデルに排出量の算定基準や排出枠の仮想取引などの事例研究を行い、各分野の方々との情報交換をしながら、排出量取引に関するノウハウを蓄積しています。

大津店でのライトダウン



え、気温に応じて外気を取り込むことのできる外気冷房システムの導入などを進めています。

06年度は全店のライトダウンを、6月の環境省提唱時に加え4月9日の当社環境記念日にも実施。1回2時間で約800kwhの電力が削減されます。夏には各店舗で「打ち水大作戦」を実施、お客さまにも楽しみながら環境活動にご参加いただきました。

環境にやさしい「魅力ある複合商業施設」づくりをテナントお取引先とともにめざし、継続的に環境活動に取り組みます

魅力ある複合商業施設をめざして、専門テナントを積極的に導入しながら店舗改装を進めていくなかで、出店するテナントお取引先に対して取引先説明会を実施し、環境関連法規・条例・社内規定の順守と、環境保全活動に関する教育・ルールの徹底と確認をしています。

テナント部門の社員に対しては、テナント部課長会や各種研修を通じて、規程の順守・教育・ルールの周知徹底と確認を継続的にを行っています。

基本を繰り返し継続的に実施することで、テナント取引先と社員ともに環境保全への意識向上に努めています。

環境に配慮した店舗オペレーションを実現し環境にやさしいショッピングをお手伝いします

西武百貨店では、店舗のオペレーションでも環境に配慮した取り組みを行っています。

車両による環境負荷を低減するために、納品する商品を納品代行会社に一括集荷し、納品便を効率化する「納品代行システム」を積極的に推進しています。また、夜間・早朝納品、店舗では納品作業の30分ルールなど排気ガスや騒音の抑制に向けて様々な工夫と努力をしています。

ごみの削減に向けては、商品の納品時に折りたたみ式のリターンブルコンテナを使用、衣料品のハンガー納品は作業時間の短縮と同時にダンボールの削減にも役立っています。

店舗の緑化や植樹にも取り組みます

店舗の緑化活動にもいち早く取り組み、たとえば池袋本店では1992年に店舗外壁の壁面緑化を行い、「垂直の森」という愛称で親しまれています。船橋店では2004年9月に屋上庭園をつくり、お客さまに四季折々の草花を楽しんでいただくと同時に、空気の浄化やヒートアイランド化防止などの環境改善効果も考慮しています。



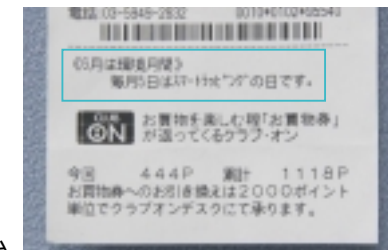
左 / 池袋本店の壁面緑化「垂直の森」
右 / 船橋店の屋上庭園下 / 店頭で定期的にごんぐりを配布
右下 / 育ったごんぐりの苗木を植樹



店頭では百貨店業界全体で推進するスマートラッピング(簡易包装)に取り組んでいます。従業員は入店時に簡易包装についての研修を受け、お客さまに積極的におすすしめし、また店内放送やお買上げレシートでもお客さまのご理解とご協力をお願いしています。

また、環境商品のご紹介と合わせ、ご購入いただいた商品を末永くご使用いただくために、靴やバッグ、宝飾品などの修理コーナー、衣料品のリフォームコーナーを設け、環境にやさしいお買い物をサポートしています。

レシートプログラム



また、池袋本店では、お買い物クマさんが定期的にごんぐりを配布。お客さまが育て、NPOに送っていただいた苗木を、社内ボランティアが参加して毎年植樹しています。



環境にやさしい商品やライフスタイルの提案

日々お客さまと接点をもつ小売業として、独自の選定基準による「環境商品」や、エコロジカルで快適な生活を実現するためのライフスタイル提案、環境イベントやセミナーの開催を積極的に行っています。

「環境商品」の選定と品揃えに努め、店頭でお客さまにわかりやすくご提案

西武百貨店では独自の「環境商品選定基準」を設定。第三者機関が選定基準の適合性を検査し、合格した商品を「環境商品」として認定、表示しています。

現在「環境商品」は有機JAS認定商品の食品・ギフト商品を中心に136アイテム(2007年2月末現在)、店頭では商品表示「グリーンアテンションカード」を掲示して、その商品の選定理由を表記し、お客さまにご提案しています。

健康に気を配り、環境に配慮しながらおしゃれで自分らしい生き方にこだわる。そんなライフスタイルへの志向が高まるなか、売場で積極的に環境に配慮のある商品の品揃えに取り組み、また、クールビズやウ

ォームビズのファッションショー、日本の伝統が生んだ包装の知恵 風呂敷 講座など、環境イベントやセミナーも積極的に行っています。

西武百貨店 / 環境商品選定基準
原材料や生産工程が低負荷であるもの
再生素材を使用しているもの
再生可能な商品であるもの
省資源・省エネ商品であるもの
環境保全を促進するもの
環境負荷に関する表示のあるもの
環境保全に積極的な企業により製造された商品であるもの



JAS認定・有機栽培された原材料にこだわった食品

エコテックス規格100の紳士ジャマと、和紙や竹繊維など梱包材もリサイクル可能な口ハスソックス



環境問題をテーマにした書籍の特集

池袋本店コミュニティカレッジでの風呂敷講座



西武百貨店がおすすめるオリジナル・エコロジーバッグ

西武百貨店では2000年6月からハンドバッグ売場と食品売場で「西武オリジナル・エコロジーバッグ」を販売しています。この「エコバッグ」はペットボトルのリサイクルから生まれる再生ポリエステルを使用、シンプルなデザインと機能性を重視し、お客さまの声を反映して改善も加えています。また、多くのお客さまからのご要望を受け、2002年9月に「保冷バッグ」を、2005年9月には保冷タイプのショッピングカートも

導入しました。エコバッグの販売を通じて、お客さまのマイバッグご持参とレジ袋、手提袋の削減を推進していきます。



エコバッグ(リパ-シンプルタイプはペットボトル2本分を使用)

近隣農家のご協力を得て、循環型の仕組みを構築。安全でおいしい食材をご提供しています

地域の廃棄物処理の負担を軽減するとともに、循環型社会をめざして、池袋本店をはじめ4店舗に店内で発生した生ごみをコンポスト(肥料)化する「生ごみ処理機」を導入。「生ごみ処理機」で再生したコンポストを近隣農家にご提供し、その肥料で生産された農産物を再び店頭で販売する資源循環システムも推進しています。この取り組みは「安全でおいしい」とお客さまから高い評価をいただいています。コンポストは定期的にお客さまにもお配りしています。



池袋本店のコンポスト・エコ野菜の売場



秋田店では毎月、定期的にコンポストをお客さまにお配りしています

法人や団体のお客さまのニーズにお応えし、環境ビジネスにも積極的に取り組んでいます

法人外商部では、リサイクル商品の開発や環境関連商品の販売、さらに資源回収システムの構築まで、企業や団体のお客さまが直面する環境課題にトータルに対応し、コンサルティングを含む解決策をご提案しています。また、そのために必要な商品知識やモノづくりのプロセスなどを学ぶために定期的に研修も行って



メーカーの工場研修で、見本の製造工程、品質管理、商品管理、環境対策などを学習

環境に配慮した商品の開発・販売

法人外商部では高級ギフトパッケージのアイテムとして、木材を使ったパッケージの提案をしています。これまで環境視点から、安価で成長の早いマメ科植物のファルカタ材を拡販してきましたが、近年の高騰により値上げせざるをえない状況です。そこで代替資材として「白松」に着眼しました。

「白松」は残材・間伐材を使うことにより、環境に優しく、機能的には抗菌(カビ)効果、虫発生防止効果があり、粉塵が出にくい、反りにくいなどの優れた特性があります。また、きれいな木目があるため、ファルカタに比べ、より高級な素材としておすすめしています。

【ユニフォーム】

ワーキング・サービスユニフォームの分野で、再生ポリエステルを使ったユニフォームが拡大しています。特に飲料会社や官公庁での採用が増加しています。

人にやさしい百貨店として

西武百貨店は盲導犬育成事業支援活動をはじめとする地域・社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。また、すべてのお客さまが安心安全にお買い物を楽しんでいただけるよう、サービスも充実させています。

盲導犬育成事業支援活動を推進

西武百貨店では「人にやさしい百貨店」として、盲導犬育成事業支援活動を推進しています。活動の一環として2004年9月より全店に募金箱を設置し、お客さまに募金のご協力をお願いしています。2006年度(2006年3月～2007年2月)にお客さまからお預かりした募金総額9,062,365円は店舗近隣7支援団体に寄付いたしました。

また、視覚障害者および盲導犬に対する理解促進を図るため、育成支援団体の協力を得て、「盲導犬ふれあいキャンペーン」を年に2回(春・秋)開催しています。このキャンペーンでは、訓練士によるデモン



盲導犬ふれあいキャンペーンと実物大の募金箱



第3回朝日企業市民賞受賞式

トレーションや実際に盲導犬を使用しているユーザーとのコミュニケーション、通常触れることのできない盲導犬とのふれあいなど、頭数が大きく不足している盲導犬の実状を知っていただくとともに、盲導犬をより身近に感じていただき、さらなる理解と協力の促進に努めています。

社内では、2005年6月に会社と労働組合の拠出金で「西武ミレニアム基金」を設立。70%以上の社員が参加している社内募金制度「西武ワン! コイン倶楽部」で基金を支援しています。基金からは全国の盲導犬育成団体に毎年1,000万円寄付しています。このような一連の活動を評価していただき、2006年10月に朝日新聞社の「第3回朝日企業市民賞」を受賞しました。

「補助犬ハンドブック」で従業員教育も徹底

お客さまへの理解促進のみならず、全従業員が「身体障害者補助犬法」や「補助犬」についての理解を深めるため、独自に「補助犬ハンドブック」を作成しています。障害をお持ちのお客さまや補助犬が店舗にご来店された際にも、適切な対応で快適にお買い物をしていただけるよう教育を徹底しています。

「ハートフルアドバイザー」「コンシェルジュ」がお客さまのお買い物をサポートします

「ハートフルアドバイザー」は財団法人総合健康推進財団が認定する民間資格で、高齢者や障害をお持ちのお客さまが来店された際の店内案内、移動の介助など、お買い物のお手伝いをするための知識と技術を身につけています。西武百貨店では2001年からこの資格をめざす研修を実施し、すべてのお客さまに安心してお買い物を楽しんでいただけるよう努めています。2006年10月には、これまで多数の認定者を出したことに對し、同財団より感謝状をいただきました。

また、全店に配置されたコンシェルジュは、店内の諸施設やサービスのご案内、お買い物相談など、お客さま一人ひとりのご要望に的確にお応えします(2007年4月現在69名)。カウンターには「点字テブラー」を

社員一人ひとりが社会貢献

各店舗・事業所では、社員食堂などにボックスを設置して収集ボランティア活動を実施しています。2006年度は古切手5,054g、使用済みプリペイドカード137,826枚を回収しました。収集した切手やカード等は財団法人ジョイセフに寄付をし、途上国での寄生虫予防や栄養改善の地域生活改善支援に役立てています。また、2005年度からアルミ缶のプルタブ回収を新たに追加し、集めたプルタブは車椅子の寄贈に役立てています。

さらにエコバッグ販売の収益金の一部を「地球環境基金」に寄付しています。

右/「地球環境基金」への寄付
下/「ジョイセフ」への寄付



設置。視覚障害の方にもお買上げの品物がわかるように、「点字シール」を作成するサービスを行っています。



上2点/総合健康推進財団より感謝状
左/ハートフルアドバイザーの技術研修



店舗外周清掃や店内の見学会で地域に貢献

地域貢献活動の一環として店舗外周清掃にも力を入れており、2006年度は全店で820回、延べ12,000人以上の従業員が参加しました。特に10月22日のセブン&アイHLDGS.全国一斉清掃には、1,050人の従業員が参加しました。

また、地域の小中高校や自治体、民間団体などのご要望に応じて、店内の見学会を実施し、環境教育や職場訓練、マナー研修等の機会を提供しています。2006年度は全店で123回、合計1,510名の方々にご参加いただきました。

豊島区共催の池袋本店エコツアー



拡大外周清掃(沼津店)



お客様の安心安全を守るために

お客様の安心安全に対する信頼に応えるために、設備のノーマライゼーションをはじめ、さまざまな取り組みを継続しています。

防災訓練の定期的な実施

不特定多数のお客様が出入りし、従業員数も多い百貨店は、地震や火災が発生した場合に被害が拡大する可能性があるため、店舗では「防犯防災対策委員会」を設置して防犯・防災計画を策定しています。自衛消防隊を組織し、万が一の場合にも適切な行動が取れるように定期的に消防訓練を実施。消防訓練には、店舗に勤務する従業員全員が年4回以上参加することが義務付けられています。繁忙期には、防犯・防災に関する点検を全店で実施します。

また、安心安全のために、避難導線の確保や安全管理点検など、日ごろから守るべきルールを定め、確実に実施しています。岡崎店では、市と大規模災害に備えた救助物資や避難場所に関する協定を結び、万が一の場合には被災者支援対策に協力していきます。



福井店・自衛消火競技大会

個人情報管理の徹底

「個人情報保護法」を契機に、社会やお客さま一人ひとりの個人情報保護への関心は大きく高まりました。個人情報の取り扱いには企業の信頼に直結します。

西武百貨店では全従業員に対し「個人情報保護方針（プライバシーポリシー）」と「個人情報保護ルール」を徹底し、個人情報管理の重要性を常に意識させるとともに、定期的な自主点検の実施により、ルールの徹底に努めています。ミレニアムリテイリング社および店舗には「情報セキュリティ委員会」を設置して、課題があれば検討し、万が一問題が生じた場合には、すぐに適切な対応がとれるような仕組みづくりをしています。

全店舗のバリアフリー化に努めています

1999年に開店した東戸塚店と2000年に開店した岡崎店は、高齢者や障害をお持ちのお客さまにも利用しやすい建築基準を定めた「ハートビル法」にもとづいて設計・建築されています。西武百貨店ではこの2店舗だけでなく、既存店舗のバリアフリー化も順次進めており、2006年9月には有楽町店、07年3月には渋谷店がリニューアルし、スロープの設置や段差のないフロア設計など、施設の見直しと整備を行いました。また、全店にAED（自動体外式除細動器）を導入するなど、すべてのお客様が安心して安全にお買い物を楽しんでいただけるよう、さらに見直してまいります。

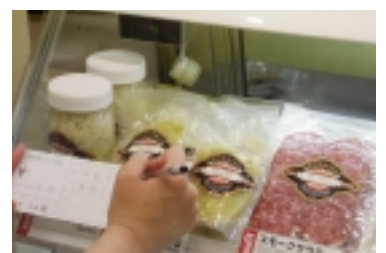


AED(自動体外式除細動器)

安心安全を基本とした食の豊かさの提供

食に関するお客様の関心は近年ますます高まり、産地や素材、製法などにわたって幅広く奥深くなっています。特に品質や消費期限・賞味期限など「安心安全」を提供することは、小売業にとって必須の使命といえます。

そこで本部機能を持つミレニアムリテイリング社および各店舗に「商品適正表示委員会」を設置し、商品の適正表示に取り組んでいます。売場や厨房では商品添付ラベルや表示パネルの内容を毎日確認し、冷蔵庫や冷凍庫の温度管理も定時に実施、食品の衛生管理に努めています。



食品売場での冷蔵庫温度点検

従業員の働く環境

お客様の信頼を支える従業員の意欲とやりがいも大切にしています。

社員のやる気とやりがいを引き出す人事制度

仕事への取り組みと成果を公正に評価し、公平に処遇する人事制度の整備に取り組んでいます。「目標管理制度」では半期ごとに本人と上司の話し合いにより目標を設定し、その結果の達成度を評価し処遇します。定期的な話し合いの中で実力の伸長や意欲、能力などを相互に確認し合うことによって、やりがいのある風土づくりを目指しています。

シューフィッターや衣料フィッター、ギフトアドバイザーなど様々な専門販売員を計画的に育成することで、社員の意欲に応え、キャリアアップをサポートし、顧客満足度の向上に寄与します。出産休暇・育児休暇、育児時間、介護休職、介護勤務など出産・育児・介護と仕事を両立させる制度は、現場の戦力であるパートナー社員まで対象を広げて充実を図っています。06年10月に八尾店屋上に保育園がオープンし、待機児童の多い地域にあって当社の従業員を含めた働くお母さんを応援しています。



八尾店の屋上にできた保育園「キッズビレッジ」



セールス職を対象とした能力開発セミナーには、全国の店舗から約70名が参加

職場環境の改善に向けて

各店では毎月労使で「職場会議」を開催し、時間管理の徹底や、現場の声を反映した職場環境の改善に努めています。また、店舗では現場の課題に細かく対応できるように「労働安全衛生委員会」「社員食堂改善委員会」「時間管理委員会」など、様々な話し合いの機会を設定しています。

さらに「能力開発プロジェクト」で、現場の意見を反映させた研修機会の創出にも積極的に取り組んでいます。



販売成績上位の優秀な販売員の方々を「スタークラブ」として認定し、半期ごとに表彰しています

ハラスメント防止とイエローホイッスル制度

経営の透明性を高めコンプライアンスの意識を徹底し、健全な企業体を維持するために、2004年より「イエローホイッスル制度」をスタート。これは従業員が「おかしい」と思ったことを、第三者である社外の弁護士に直接通報できる制度です。従業員からの通報は実態調査のうえ、経営層に報告されます。また、ミレニアムリテイリング社内にも相談窓口を設けています。

さらに、「ハラスメントガイド」を新たに作成し、互いに人権を尊重し、働く人すべてが互いに良きパートナーとなれる明るい職場づくりに取り組んでいます。

店舗の地域活動・社会貢献活動

各店舗がお客さまとともに環境問題を考え、地元の方々と取り組む地域活動をご紹介します。

池袋本店

東京都豊島区

「エコキッズフェア」開催

06年6月14日～30日まで「エコキッズフェア」を開催。環境にやさしいだけでなく、赤ちゃんやお母さんにもやさしい安全安心な商品をクローズアップ。また、お子さまに環境について楽しく学んでいただく機会として「こどもエコクラブ」も紹介しました。週末にはキャラクターの「エコまるくん」が登場。環境クイズラリーでは参加者にコンポストをプレゼント。環境紙芝居などもまじえ、お子さまに好評でした。



所沢店

埼玉県所沢市

「打ち水大作戦」を実施

06年8月12日、映画「森のリトル・ギャング」のキャラクターと一緒に、ゆかた姿の社員も加わって「打ち水大作戦」を実施しました。「森のリトル・ギャング」は、森の動物たちが冬眠から目覚めると周りがヒトの街になっていて、どうやって食べ物を集めよう？ という環境問題にも通じるストーリー。小さなお子さまを含むたくさんのお客さまにご参加いただき、打ち水後は温度も2.1度下がりました。



渋谷店

東京都渋谷区

環境イベント「アースデイ東京2007」を応援

4月22日は「地球のことを考えて行動する日・アースデイ」。この日、代々木公園を中心にイベント「アースデイ東京2007」が開かれました。自然素材製品や地球にやさしい食材など数多くのブースがあり、また会場内電力は回収された使用済み天ぷら油を燃料にした発電機でまかなわれるなど、大勢の人々で賑わいました。最寄り店舗となる渋谷店では昨年に引き続き懸垂幕を使って告知、PRに協力しました。



船橋店

千葉県船橋市

「環境にやさしい買い物キャンペーン」に参加

06年6月10日・11日、船橋駅周辺商店会や大規模店舗などが共同で、地域活性化のために活動している団体「アイラブふなばし」主催の「環境にやさしい買い物キャンペーン」に参加。参加店でお買い物すると抽選でお好きなエコバッグをプレゼントする「マイバッグ運動」を実施しました。船橋店もエコバッグ500点を提供、好評を博しました。



東戸塚店

神奈川県横浜市

「オーロラモールエコフェア」開催

06年8月12日・13日、横浜市戸塚区役所と連動し、環境をテーマにしたイベント「オーロラモールエコフェア」を開催。横浜市が使用する次世代自動車「燃料電池自動車」の展示や、ごみの分別体験をはじめ、小学生を対象に「横浜メダカの会」によるメダカの住める環境についてのお話や、総務担当による「オーロラモールエコツアー」を実施。店内施設の見学を通じて環境学習のお手伝いをしました。



札幌店

北海道札幌市

「さっぽろキャンドルナイト2006」に参加

全店一斉のライトダウンに加え、06年6月21日に札幌市内で実施された「さっぽろキャンドルナイト2006」にも参加。総合案内所で市が参加を呼びかけるパンフレットを配布するなど積極的に協力しました。併せて行われた「札幌エコライフ10万人宣言」にも店舗を挙げて参加。社員やお取引先のご家族など240人以上が宣言を行い、「閑脇」に格付けされました。06年末には目標の10万人宣言を達成しました。



高槻店

大阪府高槻市

「クリスマスエコバッグ人気コンテスト」開催

06年12月に2階の祝祭広場で「クリスマスエコバッグ人気コンテスト」を開催。婦人服ブランド26ショップから、刺繍入りやファー、リボンのついたオシャレなエコバッグを集積して展示。お客さまに一番気に入ったバッグをお選びいただき、抽選で各ブランド1名様にそのエコバッグにクリスマスプレゼントを入れて贈呈。レジ袋の代わりにエコバッグを持ち歩くことが環境にやさしいお買い物につながることをアピールし、ご協力を呼びかけました。



福井店

福井県福井市

「ウォームビズファッションショー」開催

06年11月12日に「ウォームビズファッションショー」を開催。2年目の今回は、「よりファッションブルに」をテーマに、暖房に頼らず快適に仕事ができるスタイルを提案。一般公募による男性モデルと県職員がジャケットやニット姿でウォームビズをPR。機能性肌着なども紹介しました。同時に、福井県が推進している「温暖化ストップ県民運動」の一環として、温暖化防止取り組み宣言をしていただく「エコ宣言」の登録用紙も配布。地元新聞にも取り上げられました。



秋田店 秋田県秋田市

「あきたエコ&リサイクルフェスティバル」に参加

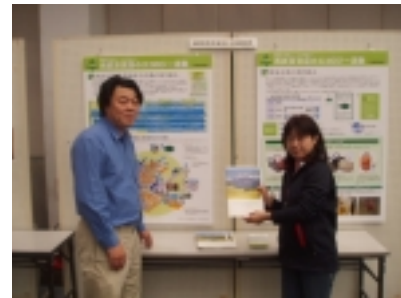
06年9月2日・3日、環境イベント「第6回あきたエコ&リサイクルフェスティバル」に参加して、新たなウォームビズ・ファッションスタイルを提案。環境パネルの展示や秋田店エコステーションにある生ごみ処理機によるコンポスト、発泡スチロール溶融機によるインゴット（溶かして固めたもの）など、資源リサイクルの取り組みも紹介しました。なかでも再生PETから作られている女性社員の制服は注目を浴び、地元のニュースでも紹介されました。



沼津店 静岡県沼津市

「沼津フリーマーケットフェスティバル」に参加

07年1月28日開催の「第18回沼津フリーマーケットフェスティバル」に参加しました。このイベントは「考えよう 地球・環境・暮らし」をテーマに、リサイクル品の販売や環境関連情報の発信などを行っています。沼津店はISO認証登録事業所コーナーで環境パネルを展示。特に容器包装ゴミの削減に向けた簡易包装への積極的な取り組みを紹介。西武百貨店の『環境・社会活動報告書2006』も配布し、広く活動を紹介しました。



八尾店 大阪府八尾市

「盲導犬チャリティコンサート」開催

「音を楽しむ」というコンセプトのもと、チャリティコンサートを主催しているグループによる「盲導犬チャリティミニコンサート」を06年11月25日に開催。当日は2回の開催で約140名のお客さまにご参加いただき、西武百貨店の盲導犬育成支援事業の取り組みを紹介。たくさんの募金のご協力もいただきました。



有楽町店 東京都千代田区

外周清掃で地域に感謝

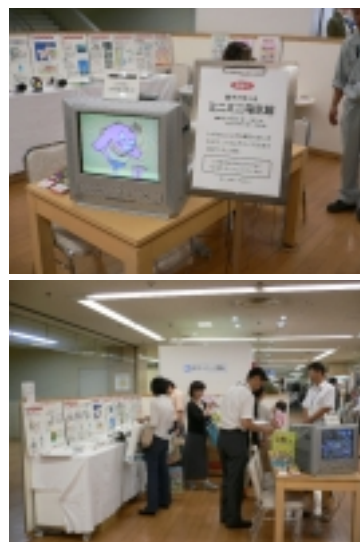
有楽町店は06年9月9日に「美」の総合専門業態として改装オープンしましたが、工事期間中に近隣の方々にご迷惑をおかけしたこと、ご声援いただいたことに感謝の気持ちを込めて、オープン後、駅前開発区域を含めた広い範囲で、美化運動を実施しました。



大津店 滋賀県大津市

「親子で学べるミニミニ電気館」開催

大津店では06年6月16日～18日の3日間、紳士服フロアと関西電力とのコラボレーションで、クールビズの紹介と併せたイベント「親子で学べるミニミニ電気館」を開催しました。電気についての豆知識をパネルやクイズ形式で紹介するもので、ムダのない上手な電気の使い方など、省エネについて学ぶことができ、親子連れで賑わいました。



岡崎店 愛知県岡崎市

「岡崎市環境フェア」開催

07年3月25日、イオンモールで岡崎市環境部主催の「環境フェア」が開催され、岡崎店もこれに協力しました。当日は環境クイズや省エネ診断に加え、「岡崎市地球温暖化防止隊・未来環境創造戦士 エコマンダー」が、ごみ出し放題の「怪人エゴマン」を破るといったキャラクターショーもあり、環境問題を大人から子どもまでアピールする機会として大いににぎわいました。



旭川店 北海道旭川市

「冬のあたたかいおもてなし」

06年下期、コンシェルジュを中心にハートフルアドバイザーが活躍。特に旭山動物園の来園者に対して旭川市共同事業体「雪の中でもてなし隊」と連携して実施した介助ボランティア参加や、旭川市障害福祉課・障害者団体と連携し企画立案した「ハートフルワークショップバザール」の開催は、地域からの注目を集め、お客さまや地域の福祉関係者からも感謝の言葉をいただきました。



筑波店 茨城県つくば市

ショッピングセンター合同清掃実施

06年10月21日、ショッピングセンター「クレオ」内の他のショップと合同で、外周清掃を実施しました。同じ建物で働く仲間として西武百貨店から195名、クレオ全体では約300名が参加し、これまでにない大規模なクリーンアップ作戦になりました。





お問い合わせ

株式会社 西武百貨店
店舗運営部総務部環境推進担当

〒171-8569

東京都豊島区南池袋1丁目28番1号

西武百貨店池袋本店書籍館6階

電話 03(5949)3514

FAX 03(5949)3550

西武百貨店ホームページ

<http://www.seibu.co.jp/>

* トップページの「お問い合わせ」から、
インターネット経由でも
ご質問などをお受けしています。

発行日 2007年6月30日

次回発行予定 2008年6月30日

前回発行日 2006年7月31日



本誌はエコマーク認定の
再生紙・大豆油インキを使用し、
再生可能です。



本誌は水なし印刷で印刷されています。
水なし印刷とは、
湿し水を使わない印刷技術のことで、
通常のオフセット印刷のような
有害な廃液を出さない印刷法です。